

# 令和8(2026)年度 開講科目の授業題目・内容と担当教員

## 目 次

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
26001	外国語仏教学論著講読	大久保 良峻 教授	1
26002	外国語仏教学論著講読	落合 俊典 教授	2
26003	外国語仏教学論著講読	斉藤 明 特任教授	3
26004	外国語仏教学論著講読	池 麗梅 教授	4
26005	外国語仏教学論著講読	デレアヌ フロリン 教授	5
26006	外国語仏教学論著講読	幅田 裕美 教授	7
26007	論文指導	大久保 良峻 教授	8
26008	論文指導	落合 俊典 教授	9
26009	論文指導	斉藤 明 特任教授	10
26010	論文指導	池 麗梅 教授	11
26011	論文指導	デレアヌ フロリン 教授	12
26012	論文指導	幅田 裕美 教授	13
26013	仏教文献学方法論	落合 俊典 教授	14
26014	仏教文化学方法論	宮本 久義 講師	16
26015	南・東南アジア仏教文献学研究	デレアヌ フロリン 教授	18
26016	南・東南アジア仏教文献学演習	デレアヌ フロリン 教授	20
26017	南・東南アジア仏教文献学演習	Mark Allon 客員教授	22
26018	内陸アジア仏教文献学研究	斉藤 明 特任教授	24
26019	内陸アジア仏教文献学研究	幅田 裕美 教授	25
26020	内陸アジア仏教文献学演習	斉藤 明 特任教授	26
26021	内陸アジア仏教文献学演習	幅田 裕美 教授	27
26022	東アジア仏教文献学研究	大久保 良峻 教授	28

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
26023	東アジア仏教文献学研究	落合 俊典 教授	29
26024	東アジア仏教文献学研究	池 麗梅 教授	31
26025	東アジア仏教文献学演習	大久保 良峻 教授	32
26026	東アジア仏教文献学演習	落合 俊典 教授	33
26027	東アジア仏教文献学演習	池 麗梅 教授	35
26028	近現代仏教研究 (仏教学と生命倫理)	土山 泰弘 講師	36
26029	近現代仏教研究 (仏教学と環境問題)	土山 泰弘 講師	37
26030	民俗学	鈴木 正崇 講師	39
26101	仏教学特殊研究 (夏学期)	藤井 教公 教授 (代表)	41
26102	仏教学特殊研究 (冬学期)	デアヌ フロリン 教授 (代表)	42
26103	日本語 I	宮田 聖子 講師	43
26104	日本語 II	宮田 聖子 講師	45
26105	古文・漢文読解 I	田戸 大智 講師	46
26106	古文・漢文読解 II	小島 裕子 講師	48
26107	サンスクリット語	河崎 豊 講師	51
26108	サンスクリット語 (中級)	河崎 豊 講師	53
26109	古典チベット語	石川 巖 講師	55

---

 専門科目
 

---

科目番号	26001
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	金曜日 3時限目
担当教員氏名	大久保 良峻 教授
授業題目	諦観録『天台四教儀』を英訳で読む
授業の目的・概要	高麗の諦観が録した『天台四教儀』は、天台教学の概略を記した名著として知られている。その内容に関する問題点も指摘されているが、入門書としての揺るぐことのない地位を築いて来た。本書を英訳で読むことにより、天台仏教の用語に対する翻訳について考えてみたい。
到達目標	『天台四教儀』の英語訳によって、天台教学の基本を、広い視野から学び、習得する。
授業計画	本書の後半（昨年度の続き）を講読する。 夏学期 第1回 天台教学概説 第2回 『天台四教儀』概説 第3回～第15回 『天台四教儀』講読 冬学期 第1回～第14回 『天台四教儀』講読 第15回 総括
授業の方法	担当者による日本語での発表形式とする。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中に、その都度、口頭でコメントする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の内容を予習する。予習・復習に、4時間をかけること。
テキスト	大正新脩大蔵経 46 所収『天台四教儀』。David.W.Chappell、一島正真編 <i>T'IENT'AI BUDDHIZM: AN OUTLINE OF THE FOURFOLD TEACHINGS</i> （第一書房）。
参考文献	関口真大校訂『昭和校訂 天台四教儀』（山喜房佛書林）。 その他については、教場で指示する。
履修上の注意	原典の忠実な読みを心掛けて下さい。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26002
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	木曜日 5時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	桂大納言入道訓点『高僧伝』を参照して湯用形撰『漢魏両晋南北朝史』を読む(その①)
授業の目的・概要	<p>湯用形(1893~1964)は中国仏教史研究において近代的観点から『漢魏両晋南北朝史』を書き上げ、その足跡を世界に残した。彼が多用した『高僧伝』が近年影印本として刊行され、その足跡がより一層明確になった。</p> <p>一方、岩屋寺にある南宋思溪版の『高僧伝』には詳細な訓点が付されていたが、これは桂大納言入道(俗名藤原光頼 1124~1173)の訓点であるが、優れて奥深い読解文である。</p> <p>漢代の訳経として第四章漢代仏法之流布を取り上げていくが、特に安世高之訳経、支婁伽讖之訳経について『高僧伝』を座右として検証読解し、その役割を明確にしていきたい。</p>
到達目標	湯用形の『漢魏両晋南北朝史』の意義、および桂大納言入道の『高僧伝』訓点の理解度を測りつつ初期中国仏教の基本的知識を身につけていくことが目標である。
授業計画	<p>夏学期①仏教の中国伝来。②正史『後漢書』と仏教。③湯用形『漢魏両晋南北朝仏教史』概説1。④同概説2。⑤桂大納言入道について。⑥同2。⑦同3。⑧『漢魏両晋南北朝仏教史』第四章を読む。⑨同2。⑩同3。⑪同4。⑫同5。⑬同6。⑭同7。⑮同8。</p> <p>冬学期①夏学期の続き。『漢魏両晋南北朝仏教史』を読む9。②同10。③同11。④同12。⑤同13。⑥同14。⑦同15。⑧同16。⑨同17。⑩同18。⑪同19。⑫同20。⑬同21。⑭同22。⑮まとめ。</p>
授業の方法	テキストとして旧版『漢魏両晋南北朝仏教史』を使用する。旧版をコピーもしくはダウンロードしてテキストとする。本書の凡例解題等を一読しておくことが望まれる。湯用形の『漢魏両晋南北朝仏教史』の講読を桂大納言入道の訓点が付された岩屋寺本『高僧伝』(思溪版)を用いながら演習形式で行う。出席者は事前に下調べを行い、考察してくることが求められる。
教員から学生へのフィードバック方法	担当箇所の発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	レポートに平常点(授業への積極参加)を加味して通年評価
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要な時間	予習にはテキストデータだけの読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を涉猟し知識を定着させる。2時間以上復習に当てる。
テキスト	湯用形『漢魏両晋南北朝仏教史』旧版使用。 岩屋寺本『高僧伝』は善本叢刊第10輯を使用。
参考文献	吉川忠夫・船山徹共著『高僧伝』(岩波文庫)
履修上の注意	テキストが入手困難な場合には申し出てください。 研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	26003
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	金曜日 4時限目
担当教員氏名	斉藤 明 特任教授
授業題目	Bu ston, <i>History of Buddhism</i> (Chos 'byung) 講読
授業の目的・概要	<p>プトゥン『仏教史』は Bu ston Rin chen 'grub (1290-1364) が 1322 年に著した作品である。チベットにおける貴重な仏教史として知られ、最終第 4 章にはチベットの後期仏教伝播期における最初の訳経論目録を置く。著者の Bu ston はまた、チベット大蔵経の旧ナルタン版(写本)のテンギユルを最終的に確定し、1334 年にシャル寺に納めたことでもよく知られる。</p> <p>本書の前半部を占める仏教史部分は、第 1 章仏教概説、第 2 章インド仏教史、第 3 章(プトゥン以前の)チベット仏教史からなる。これら 3 章の翻訳は、今なお 1931 年に出版された E. Obermiller による英訳が広く利用されている。この授業では、同英訳とともに、Bu ston のチベット語文を基に読みすすめる。本年度は第 1 章(仏教概説)の p. 41 以降を扱う。</p>
到達目標	仏教の教理と歴史の概要を英訳文およびチベット語原文で読み、考え、適確に理解することを旨とする。
授業計画	<p>夏学期</p> <p>1 The Word which is the result of blessing 2-3 The Division of the Exegetical Treatises (<i>śāstra</i>) 4-6 The aim of the different treatises 7-10 Grammar, Prosody, Lexicography, Poetics, Medicine and Metaphysics 11-12 Works on <i>Abhidharma</i> and Treatises on <i>Vinaya</i> 13-15 Works on <i>Prajñāpāramitā</i></p> <p>冬学期</p> <p>1-2 Yogācāra Works 3-4 The summary works 5-8 The treatises of Vasubandhu on Idealism 9-11 The Consideration and Fulfillment of Rules prescribed by Study and Teaching 12-15 Characteristic of the methods of teaching</p>
授業の方法	講義と関連テキストの講読を中心とし、必要に応じて関連資料(写本コピー等)を配布して利用する。積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点(授業中の発表を含む)にて通年で評価。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要な時間	毎回の授業の予習には 3 時間以上、復習には 1 時間の時間をかけること。
テキスト	E. Obermiller, tr., <i>History of Buddhism (Chos-hbyung) by Bu-ston</i> , Heidelberg 1931, repr. Tokyo: Suzuki Gakujutsu Zaidan, 1964. Lokesh Chandra, ed., <i>The Collected Works of Bu-ston</i> , Part 14 (Ya), Śatapiṭaka Series, vol. 64, New Delhi: International Academy of Indian Culture, 1971.
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	26004
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	金曜日 2時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業題目	方廣鋈著『大蔵経研究論集(上)』講読
授業の目的・概要	本書は漢文大蔵経の歴史を研究する上で必要不可欠とされる名著の一つである。本書の講読によって、写本大蔵経から宋元時代の刊本大蔵経に至るまで、中国と朝鮮半島における漢文大蔵経の成立と伝播を全体的に理解することを目的とする。
到達目標	本書を講読することによって、受講者が漢文大蔵経の歴史を体系的に理解し、個々の大蔵経に対して独自の視点と問題意識を持って調査・研究を深めていけるようになることが目標である。
授業計画	夏学期 第1回 概説 第2-8回 写本大蔵経の編纂、種類と系統 第9-15回 開宝蔵刊刻をめぐる問題  冬学期 第1回 概説 第2-8回 天台教典の入蔵 第9-15回 第三種の契丹蔵
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻訳するだけではなく、その記述内容を分析して問題点を指摘した上で、関連研究の現状ならびに今後の展望についての受講者自身の考えも踏まえて発表してもらいたい。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点(授業中の発表を含む)にて通年で評価。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	方廣鋈著『大蔵経研究論集(上)』、桂林：広西師範大学出版社、2021年。
参考文献	方廣鋈著『大蔵経研究論集(下)』、桂林：広西師範大学出版社、2021年。
履修上の注意	積極的な授業参加が望まれる。担当者は発表原稿を人数分用意すること。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	26005
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	月曜日 4時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	現代研究と原典読解を通して学ぶ佛教の主要教義と語彙 Learning Key Buddhist Doctrines and Terminology through Modern Studies and Classical Texts
授業の目的・概要	今年度は、インドとチベットの初期佛教と部派佛教に焦点を当てる予定である。夏学期は、初期佛教の歴史と思想を研究しながら、この分野で用いられる主な英語専門用語や特有表現を学習する。冬学期は、説一切有部や経量部、上座部の教義体系に焦点を当てる
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現代佛教学に用いられる専門用語や表現、文体等を学ぶこと。</li> <li>● 主として英語の読解力や語彙力を向上すること。</li> <li>● 初期佛教と部派佛教の基礎教義と歴史を研究すること。</li> </ul>
授業計画	<p style="text-align: center;">夏学期</p> <p>(1) 授業の紹介・基礎知識  (2)-(4) Paul Williams et al., 'The Doctrinal position of the Buddha in context', in Williams 2012 (see bibliographical data below), 1-7  (5)-(8) Paul Williams et al., 'The Doctrinal position of the Buddha in context', in Williams 2012 (see bibliographical data below), 8-14  (9)-(12) Paul Williams et al., 'The Doctrinal position of the Buddha in context', in Williams 2012 (see bibliographical data below), 15-22  (13)-(15) Paul Williams et al., 'The Doctrinal position of the Buddha in context', in Williams 2012 (see bibliographical data below), 23-29</p> <p style="text-align: center;">冬学期</p> <p>(1)-(5) Paul Williams et al., 'The Doctrinal position of the Buddha in context', in Williams 2012 (see bibliographical data below), 83-85  (6)-(9) Paul Williams et al., 'The Doctrinal position of the Buddha in context', in Williams 2012 (see bibliographical data below), 86-87  (8)-(11) Paul Williams et al., 'The Doctrinal position of the Buddha in context', in Williams 2012 (see bibliographical data below), 87-90  (12)-(14) Paul Williams et al., 'The Doctrinal position of the Buddha in context', in Williams 2012 (see bibliographical data below), 90-92, 96-97  (15) 年末テスト</p>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 夏学期の(1)及び冬学期の(1)～(5)は講義形式で行い、それ以外の授業は、学生参加型のセミナーとなっている。セミナーでは、参加者全員は、読む予定の箇所を予習し、課せられた宿題を準備する必要がある。</li> <li>● 冬学期の最後の授業中にて、年末テストを行う予定である。範囲や方法等に関する詳細は、授業中に説明する。</li> </ul>
教員から学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原則として、口頭で指導を行う。</li> <li>● 必要に応じてメールやオンラインで指導を行うことがある。</li> </ul>
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	出席点及び平常点(総点の75%)及び期末テスト(総点の25%)にて通年で評価する。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要な時間	予習: 2時間 復習: 2時間 授業の内容について事前に知らせ、これを予習し、授業後はそれを復習し、得た知識を纏め直すこと。

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Paul Williams, with Anthony Tribe and Alexander Wynne, <i>Buddhist Thought</i> (2<sup>nd</sup> edition; 2012)</li> </ul>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>● P. Williams, <i>Mahāyāna Buddhism</i></li> <li>● E. Frauwallner, <i>The Philosophy of Buddhism</i></li> <li>● J. Westerhoff, <i>The Golden Age of Indian Buddhist Philosophy</i></li> </ul>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業は、原則として日本語で行われるが、必要に応じて英語等でも対応する。</li> <li>● 読解力としては、日本語（中級以上）と英語（初級以上）の知識が望ましい。</li> <li>● 止むを得ない場合は、オンライン授業を行うことがある。</li> </ul>
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26006
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	木曜日 3時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	Zin & Schlingloff, Samsāracakra 講読
授業の目的・概要	本書はアジャンタ石窟寺院の輪廻図が根本説一切有部の律文献の記述に基づくことを解明した研究書である。本書の講読によって仏教美術と文献との密接な関係を理解し、その方法論を理解することを目的とする。
到達目標	本書を講読することによって、仏教美術および文献の厳密な研究方法を学び、インド仏教美術の歴史を文献に基づいて理解することを目標とする。あわせてドイツ語の読解能力を養う。
授業計画	夏学期 第1回 Introduction 第2-8回 The Water Wheel as a Symbol of Samsāra 第9-15回 Buddhist Instructions for Painting the Wheel 冬学期 第1-7回 The Painting of the Wheel in Ajanta 第8-15回 Text and Painting in Comparison
授業の方法	テキストで論述されている内容を概観し、問題点を議論する。研究対象となっている文献については適宜、原典および写本をあわせて参照し、講読する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。英語版テキストは事前に読んでおくことが望ましい。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	Monika Zin & Dieter Schlingloff, Samsāracakra. Das Rad der Wiedergeburten in der indischen Überlieferung. Düsseldorf: EKÖ-Haus, 2007. Monika Zin & Dieter Schlingloff, Samsāracakra. The Wheel of Rebirth in the Indian Tradition. New Delhi: Dev Publishers, 2022.
参考文献	Dieter Schlingloff, Ajanta. Handbuch der Malereien (Handbook of the Paintings) 1. Erzählende Wandmalereien (Narrative Wall-paintings). vol. I: Interpretation; vol II: Supplement; vol. III Plates. Wiesbaden: Harrassowitz, 2000. Monika Zin, Ajanta. Handbuch der Malereien (Handbook of the Paingings) 2. Devotionale und ornamentale Malereien (Devotional and Ornamental Paintings). vol. I: Interpretation; vol. II: Tafeln/Plates. Wiesbaden: Harrassowitz, 2003. (Guide to the Ajanta Paintings. vol. 2. Devotional and Ornamental Paintings. New Delhi: Munshiram, 2003).
履修上の注意	テキストが入手困難な場合には申し出てください。 サンスクリット語の基礎知識が必要です。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26007
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	火曜日 5時限目
担当教員氏名	大久保 良峻 教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に関する全般を指導する。それぞれが興味を持つ分野からの 題目設定、具体的な内容と執筆の方法、その他を教示しつつ、期限内の完成 を目指す。
到達目標	先行研究を広く検討することで学界の水準を理解し、従来の研究を進展させ ることが目標となる。
授業計画	それぞれの進捗状況に合わせて、課題を与えつつ、指導する。
授業の方法	個別指導を基本とし、学位論文執筆上の相談や文章の添削等を行う。
教員から学生への フィードバック方法	授業中に、その都度、口頭でコメントする。
学位授与方針と の関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価する。
準備学習（予 習・復習等）の 具体的な内容及 び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の内容を予習・ 復習に、4時間をかけること。
テキスト	それぞれのテーマに応じて選択する。
参考文献	必要に応じて選択する。
履修上の注意	漢文文献の訓読による読解力を増強しつつ、原典に親しむようにして下さい。
連絡方法	初回の授業で説明する。

## 聴講生は対象外

科目番号	26008
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	火曜日 3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆におけるテーマ設定から内容の指導、体裁、参考文献の取り扱い方、提出までに必要な事項等を教授する。
到達目標	仏教文献学の方法を習得すること。仏教文献は様々な言語で書かれていることから基本的言語の習得の上に研究テーマを設定し、論文を書けるようになることが目標である。
授業計画	最初に研究テーマの設定に関して討論を重ね、具体案作成へ向けて、いくつかのレポートを作成していく。次いで受講生は、先行研究論文を読破し、先行研究の問題点についてレポートの提出が求められる。このレポートを基に新たな観点や新知見の可能性について論議検討し、研究テーマの絞り込みに努める。夏学期：①研究論文の書き方。②研究の方法論。③研究資料の探索方法。④外国語文献の探索方法。⑤研究テーマの選定。⑥複数の研究テーマ。⑦研究テーマのデッサン。⑧研究チャートの作成。⑨研究文献のフィールドワーク。⑩研究テーマ討論。⑪研究テーマ変更の方法。⑫研究会の案内。⑬学会の案内。⑭発表の方法。⑮発表。討論。冬学期：①発表と討論の方法。②討論の文句。③先行研究の徹底的解説。④外国語先行研究の解説方法。⑤当該研究者の見つけ方。⑥文字資料の扱い方。⑦活字本と刊本。⑧刊本と写本。⑨写本の読解方法。⑩写本の所在。⑪写本の探索方法。⑫写本に関する書誌学的知識。⑬文献学。⑭文献学の確立。⑮発表と討論
授業の方法	受講生の研究してきたレポートについて適宜問題点を指摘し、レベルアップを図る。また重要資料を図書館その他から取り寄せ、その解説を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。
教員から学生へのフィードバック方法	学位論文の執筆におけるテーマ設定から内容の指導、体裁、参考文献の取り扱い方、提出までに必要な事項等を教授する。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	研究テーマが定まり次第テキストや先行研究論文の集成的指導を行う。
テキスト	研究テーマ決定に従って参考文献を探索する。参考文献の探し方についても指導を行う。
参考文献	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
履修上の注意	初回の授業で説明する
連絡方法	研究テーマが定まり次第テキストや先行研究論文の集成的指導を行う。

## 聴講生は対象外

科目番号	26009
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	火曜日 4時限目
担当教員氏名	斉藤 明 特任教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆に際してのテーマの設定、研究に必要な資料や参考文献の収集、適切な研究方法などを指導する。
到達目標	学位論文に関する毎回の報告と指導を踏まえ、関連する学術論文の作成方法を学んだ上で、学位論文の完成を目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説（論文とは何か：目的、方法等） 2 論文のルール 3 学位論文のテーマ設定をめぐる 4-15 報告と議論、および指導 冬学期 1 進行状況の報告と展望 2-15 報告と議論、および指導
授業の方法	学生が用意してきたレポートや研究の部分的な成果をもとに、コメントと質疑応答、ならびに討論を交えながら授業を進める。
教員から学生へのフィードバック方法	個別に対面で、あるいはメールでコメントする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）により、通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	毎回の授業の予習には5時間、復習には1時間の時間をかけること。
テキスト	必要に応じて授業の中で指示する。
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	論文の完成に向けた地道な取り組みが期待される。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

聴講生は対象外

科目番号	26010
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	木曜日 5時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に向けて、研究テーマ、問題の設定、論文の構成、研究の方法、必要な文献、原典の翻訳・解釈などにわたって、個別に指導する。
到達目標	合理的な研究計画に従って、研究の方法を習得しながら、学位論文の完成を目指す。
授業計画	研究テーマによって、個別に協議検討した上で決定する。
授業の方法	論文執筆者が準備段階ごとに提示する研究成果（問題意識も含めて）をもとに、コメント、討論、または助言などを行う。
教員から学生へのフィードバック方法	個別に対面で、あるいはメールでコメントする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること。
履修上の注意	合理的な研究計画の立案と、研究遂行に向けた地道な取り組みが望まれる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する。

## 聴講生は対象外

科目番号	26011
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	水曜日 5時限目 金曜日 5時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業の目的・概要	この時間の主な目的は、学位論の計画や執筆などを指導し、積極的にサポートを行うことである。論文の進捗状況を確認しながら、執筆過程に於いて直面する諸問題（論文構成や研究方法、資料調査、難解箇所の正確な読解など）にあたり、学生と共に取り組み、問題解決を目指している。
到達目標	論文研究や執筆は、各学期に確実に進むこと。
授業計画	各学生と相談し、個別に決めること。
授業の方法	学生による報告のほか、質疑応答や原文解説、論文構成や研究方法等に関する説明を行う。
教員から学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原則として、口頭で指導を行う。</li> <li>● 必要に応じてメールやオンラインで指導を行うことがある。</li> </ul>
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：2時間 復習：2時間 授業の内容について事前に知らせ、これを予習し、授業後はそれを復習し、得た知識を纏め直すこと。
テキスト	論文のテーマ等によって、個別に決めること。
参考文献	論文のテーマ等によって、個別に決めること。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 修士論文は、研究分野に関する総合的な知識を把握し、その中で特定の側面・文献に焦点を当て、問題所在や先行研究を網羅し、原典をよく理解するほか、新たな結論を導くことを目指している。</li> <li>● 博士論文は、上記の条件を満たした上で、更に緻密な文献学的・歴史学的方法を用いて、選んだテーマや文献に関する新しい発見・貢献を成し遂げることを目指している。</li> <li>● 止むを得ない場合は、オンライン授業を行うことがある。</li> </ul>
連絡方法	初回の授業で説明する

## 聴講生は対象外

科目番号	26012
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	木曜日 4時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に必要な方法を習得することを目的とする。テーマの設定、研究史の把握、必要な文献の選択、文献解読の方法、写本読解の方法、批判テキストの分析方法などを指導する。
到達目標	仏教研究に必要な基礎能力を身につけ、学位論文を完成することを目標とする。
授業計画	受講生の学問的関心と研究テーマにそって、個別に相談し、決定する。
授業の方法	受講生の関心と研究テーマについて議論し、その研究テーマにふさわしい文献を選択する。研究テーマと文献に関する研究史を調査し、論文の内容と構成を決定する。論文の進捗段階に合わせて、論文原稿を議論する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、論文原稿等は添削して返却する
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	論文の構想をまとめ、文献資料を調査し、論文原稿を準備すること。授業でのコメントや議論を参考に論文原稿を訂正すること。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要なテキストを用いる。
参考文献	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要な文献を用いる。
履修上の注意	積極的な問題意識を持って、論文の完成に向けて地道に取り組むことが望まれます。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26013
科目名・単位数	仏教文献学方法論 4単位
科目ナンバリング	3-4 (1-2)
時限	火曜日 4時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	日本古写経『在家人布薩法卷第七』の研究
授業の目的・概要	<p>神谷家本『在家人布薩法卷第七』は奈良時代に書写された典雅な写経である。重要文化財に指定されているが、本文の研究は未だ十分になされていない。</p> <p>本書の内容については南山律宗の道宣(596~667)の著『四分律行事鈔』「説戒正儀篇第十」に「『出要律儀』云」として布薩を「是僞薩羅國語」云々としているが、『在家人布薩法』にも同文が見られる。従って本書は『出用律儀』の巻七と想定される。さらに敦煌本P.2196は『出家人授菩薩戒法卷第一』とあるが、その内容は構成から直ちに『在家人布薩法』と相似していることが理解できる。敦煌本はその奥書(519年)と書風から六朝の梁代に書写されたことは学界の定説でもある。</p> <p>『出要律儀』は諸書の記録から①梁宝唱撰、②梁武帝撰、③律僧法超と武帝の共著との説がある。道宣は同じく『四分律行事鈔』の中で「梁武帝準律集」としているが、『統高僧伝』の「法超伝」には、武帝が法超を「律学之秀」として都邑の僧正とした上で律部が煩瑣であるので簡潔な律の綱要書を撰述したとあるが、これは律に詳しい法超の解説なしに撰述し難いものである。</p> <p>日本古写経の基礎的知識を学びつつ、中国六朝時代の戒律思想の展開の中から生まれた『出要律儀』(全十四巻)の残存である巻一と巻七を概観しつつ巻七を本格的に読解する。</p>
到達目標	<p>仏教思想、特に三学の中国的展開の中で、戒・定・慧の筆頭にある戒の歴史的展開を把握しておくことは必須である。</p> <p>六朝期は特に五世紀前後に漢訳された広律に依ってほぼ律部の全容が窺えるようになってきたが、スコラの煩瑣に多くの僧侶が苦しんでいた。それを端的に吐露したのが梁の武帝(在位502~549)である。煩重な広律から要点を抜き出しまとめた書が『出要律儀』である。現存するのはその巻一と巻七。日本古写経の巻七の『在家人布薩法卷第七』の概要を理解することが到達目標である。</p>
授業計画	<p>夏学期①経録の歴史。②経録と広律。③各広律の特徴。④薩婆多部は説一切有部。⑤七世紀後半の義浄が見たインド仏教の戒律。⑥六朝時代の戒律の主流。⑦十誦律は説一切有部。⑧六朝時代の戒律から隋唐代の戒律。⑨道宣の師僧智首禪師。⑩智首禪師の『出要律儀綱目章』一卷。⑪『在家人布薩法』の書誌情報。⑫『在家人布薩法』読解1。⑬同2。⑭同3。⑮同4。</p> <p>冬学期①夏学期の続き。同5。②同6。③同7。④同8。⑤同9。⑥同10。⑦同11。⑧同12。⑨同13。⑩同14。⑪同15。⑫同16。⑬同17。⑭まとめ1。⑮まとめ2。</p>
授業の方法	<p>テキストを事前に予習し、訳注を行い発表する。毎回課題を出しその準備として異体字辞典等を参照して文字の異同をチェックしCBETAやSATを活用して読解に供する。これらは準備段階であるが、授業ではそれらの解説を振り当てられた担当者が発表していく形式となる。</p>
教員から学生へのフィードバック方法	<p>担当箇所の発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。</p>
学位授与方針との関連	<p><a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a></p>

成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には文献資料の読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を書写して翻刻・訓読・訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。2時間以上復習に当てる。
テキスト	『在家人布薩法卷第七』。コピーを渡す。
参考文献	“Assigning a Title to Dunhuang Document Pelliot 2196 on the Basis of the Version among Ancient Japanese Manuscripts.” By Toshinori OCHIAI. 『東方学研究論集 高田時雄教授退職記念』臨川書店。平成26年。 諏訪義純『中国中世仏教史研究』（大東出版社。1996）。同『中国南朝史研究』同。
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26014
科目名・単位数	仏教文化学方法論 4単位
科目ナンバリング	4-4 (1-2)
時限	火曜日 2時限目
担当教員氏名	宮本 久義 講師 (元東洋大学 教授)
授業題目	道をめぐるインド文化論
授業の目的・概要	人はなぜ移動するのかという問題は、人間の歴史的・文化的営為を読み解くための重要なポイントであり、道はそのキーワードのひとつであると考えられる。道は、民族移動の道、交易の道、巡礼や求法の道、文化伝播の道、民族独立の道などさまざまな要素を持っている。いろいろな地図を見ながら、そこにあらわれのさまざまな歴史と文化の問題を一緒に考えていきたい。釈尊ブッダの求道と伝道の道や、法顕・玄奘・義浄など求法僧の辿った道を手始めに、スリランカや東南アジア、中国、日本への仏教の伝播などを概説する。また、仏教の八大霊場と比較する意味で、ヒンドゥー教の聖地の分類やその特徴を考察しつつ、仏教とヒンドゥー教の複合的聖地であるカイラーサやヴァーラーナシーなどの現在の聖地信仰の実態にも触れる。さらに、イブン・バトゥータの『三大陸周遊記』やマルコ・ポーロの『東方見聞録』、鄭和の西洋下りの記録『瀛涯勝覧』などを資料として、イスラーム世界やキリスト教世界、中国世界とインドの繋がりにも触れる予定である。
到達目標	インドを中心とする南アジアを対象として道の文化史を考えるとき、そこにはその地域的特殊性ととも、全世界に共通する普遍性も浮かび上がってくるであろう。それらを理解し、地理・歴史と文化・思想が緊密に結びつく様相を分析・考察できるようになることを目標とした。
授業計画	夏学期 第1回：南アジアのトポロジー 第2回：先史以来の道の動態・古代インドの道 第3回：ブッダの求道と伝道の道 第4回：仏教の八大霊場 第5回：『法顕伝』とその関連資料 第6回：法顕の求法の旅の目的とたどった道 第7回：『南海寄帰内法伝』とその関連資料 第8回：義浄の求法の旅の目的とたどった道 第9回：『大唐西域記』とその関連資料 第10回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(1) 第11回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(2) 第12回：『大唐西域記』における地名同定の問題点 第13回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(1) 第14回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(2) 第15回：日本における聖地巡礼 冬学期 第1回：ヒンドゥー教の宗教思想 第2回：ヒンドゥー教の聖地 第3回：ブラーナ聖典における「マーハートミヤ」 第4回：ブッダガヤーとガヤー 第5回：ヴァーラーナシーとサルナート(1) 第6回：ヴァーラーナシーとサルナート(2) 第7回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(1) 第8回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(2) 第9回：中世インドを旅した人々

	<p>第 10 回：イスラームの来た道  第 11 回：イブン・バットゥータの『三大陸周遊記』  第 12 回：マルコ・ポーロの『東方見聞録』  第 13 回：キリスト教の来た道  第 14 回：フランシスコ・ザビエルの伝道  第 15 回：総括</p>
授業の方法	こちらで用意した配布資料をもとに講義を進めていく。漢文やサンスクリットの原典を使用するときには、できるだけわかりやすく解説する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする。また必要があれば、メールでコメントする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習・復習を合わせて少なくとも 4 時間程度の時間をかけてほしい。
テキスト	基本的にオンライン授業なので、添付ファイルで資料を配布する。
参考文献	<p>小西正捷・宮本久義編『インド・道の文化誌』春秋社、1995 年  水谷真成訳『大唐西域記』平凡社、1972 年  義浄撰、宮林昭彦・加藤栄司訳『南海寄帰内法伝』法蔵館、2004 年  長沢和俊訳註『法顕伝・宋雲行紀』平凡社、1975 年  馬欽著、小川博訳注『瀛涯勝覽』吉川弘文館、1969 年  その他、講義中に適宜教示する。</p>
履修上の注意	講義中は常にインドの地図を参照し、インドの地理と文化が徹底的に頭に入るように努力していただきたい。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26015
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7A1-8 (1-3)
時限	月曜日 3時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	梵漢比較研究—『維摩経』を中心に— Sanskrit-Chinese Comparative Philology: Focusing on the <i>Vimalakīrtinirdeśa</i>
授業の目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 『維摩経』「弟子品・菩薩品」を例にサンスクリット原文 (Potala MS) 及び現存する三漢訳 (支謙訳、羅什訳、玄奘訳) を緻密に検討読解し、比較することによって、それぞれのテクスにみられる相違がインド写本変遷の歴史を物語っているか、或いは漢訳者の訳風や特徴を反映しているかについて検討していきたい。</li> <li>● 必要に応じて、蔵訳のほか、現代語訳 (和文、英文、仏文等) をも参照することがある。</li> <li>● 思想的には、『維摩経』の独自の空説や菩薩理念などを考察するのみならず、「弟子品・菩薩品」にみられる初期佛教伝来の教義や修行等の批判・再解釈をも考察していきたい。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 梵語及び漢訳を正確に読解し、それぞれの言語の知識を深めること。</li> <li>● 文献を比較することによって、成立史や伝承史を探ること。</li> <li>● 大乘佛教に於ける『維摩経』の位置と歴史を理解すること。</li> <li>● 『維摩経』の主要教義、とりわけ、居士の立場から説示される「空」や「菩薩」等を理解すること。</li> <li>● 梵・漢文献の正確な校訂や訳注方法を身につけること。</li> </ul>
授業計画	<p>夏学期 (1) 授業の紹介・基礎知識 (2)-(4) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 87-8 (5)-(8) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 88-89 (9)-(12) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 89-90 (13)-(15) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 91-92</p> <p>冬学期 (1)-(5) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 92-93 (6)-(9) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 94-95 (8)-(11) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 95-96 (12)-(14) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 96-97 (15) 年末テスト</p>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 夏学期の(1)は講義形式で行い、それ以外の授業は、学生参加型のセミナーとなっている。セミナーでは、参加者全員は、読む予定の箇所を予習し、課せられた宿題を準備する必要がある。</li> <li>● 冬学期の最後の授業中にて、年末テストを行う予定である。範囲や方法等に関する詳細は、授業中に説明する。</li> </ul>
教員から学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原則として、口頭で指導を行う。</li> <li>● 必要に応じてメールやオンラインで指導を行うことがある。</li> </ul>
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	出席点及び平常点 (総点の75%) 及び期末テスト (総点の25%) にて通年で評価する。
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及び必要な時間	<p>予習: 2時間 復習: 2時間</p> <p>授業の内容について事前に知らせ、これを予習し、授業後はそれを復習し、得た知識を纏め直すこと。</p>

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Study Group on Buddhist Sanskrit Literature (Taisho University) ed. <i>Vimalakīrtinirdeśa, Transliterated Sanskrit Text Collated with Tibetan and Chinese translations</i> = 《梵藏漢対照『維摩經』》</li> </ul>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 植木雅俊訳『梵藏漢対照・現代語訳 維摩經』（岩波書店、2011年）</li> <li>● 植木雅俊『梵文『維摩經』翻訳語彙典』（法蔵館、2019年）</li> <li>● 高橋尚夫『維摩經ノート』（ノンブル社、2017年）</li> <li>● Luis Gomez and Paul Harrison transl. <i>The Teaching of Vimalakīrti</i> (Berkeley: Mangalam Press, 2022)</li> <li>● Étienne Lamotte transl. <i>The Teaching of Vimalakīrti (Vimalakīrtinirdeśa)</i> (Rendered into English by Sara Boin) (Oxford: Pali Text Society, 1994)</li> <li>● Robert A.F. Thurman transl. <i>The Holy Teaching of Vimalakīrti: A Mahāyāna Scripture</i> (Delhi: Motilal Banarsidass Publishers, 1991 [1976])</li> </ul>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業は、原則として日本語で行われるが、必要に応じて英語等でも対応する。</li> <li>● 読解力としては、日本語（中級以上）のほか、漢文〔文言〕（初級以上）、サンスクリット語（初級以上）、英語（初級以上）等が望ましい。</li> <li>● 止むを得ない場合は、オンライン授業を行うことがある。</li> </ul>
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26016
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7A2-8 (1-3)
時限	月曜日 5時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	瑜伽行派の研究—『瑜伽師地論』 ( <i>Yogācārabhūmi</i> ) を中心に— <i>Yogācāra Buddhism: Focusing on the Yogācārabhūmi</i>
授業の目的・概要	今年度は、瑜伽行派の最も根本的な論書である『瑜伽師地論』を主題とし、その文献成立および思想的背景に留意しつつ、全体構造と主要内容を考察する。きわめて煩瑣な構造を有する『瑜伽師地論』を理解するためには、各構成部分の思想的内容を的確に把握することが不可欠である。そのため、本講義では各章の概要を詳述し、必要に応じて重要箇所について梵語原文、あるいは漢訳・藏訳を講読する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インド大乘佛教の二大学派の一つである瑜伽行派の文献と思想に関する知識を深めること</li> <li>● 厳密な文献分析を通して、原典の成立史や思想史的展開を学ぶこと</li> <li>● サンスクリット原文の校訂並びに藏訳や漢訳との比較、更に</li> <li>● 現代語訳の方法を身につける</li> </ul>
授業計画	<p style="text-align: center;">夏学期</p> <p>(1) 授業の紹介・基礎知識 (2)-(4) 『瑜伽師地論』— 全体構造と現存資料 (5)-(8) <i>Pañcaviññānakāyaśaṃprayuktā bhūmiḥ – Manobhūmiḥ</i> (9)-(12) <i>Savitarkā savicārā bhūmiḥ – Asamahitā bhūmiḥ</i> (13)-(15) <i>Sacittikā bhūmiḥ – Asacittikā bhūmiḥ</i></p> <p style="text-align: center;">冬学期</p> <p>(1)-(5) <i>Śrutamayī bhūmiḥ – Bhāvanāmayī bhūmiḥ</i> (6)-(9) <i>Śrāvakaḥ bhūmiḥ</i> (8)-(11) <i>Pratyekabuddhabhūmiḥ – Bodhisattvabhūmiḥ (I)</i> (12)-(14) <i>Bodhisattvabhūmiḥ (II) – Nirupadhikābhūmiḥ</i> (15) 年末テスト</p>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義及びセミナーという混交型の授業を行い、関連資料（英文また梵文、漢文、藏文）を講読する。年末テストも行う予定で、その範囲や方法に関する詳細は、授業中にて説明する。</li> </ul>
教員から学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原則として、口頭で指導を行う。</li> <li>● 必要に応じてメールやオンラインで指導を行うことがある</li> </ul>
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	出席点及び平常点（総点の75%）及び期末テスト（総点の25%）にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	<p>予習：2時間 復習：2時間</p> <p>授業の内容について事前に知らせ、これを予習し、授業後はそれを復習し、得た知識を纏め直すこと。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● U.T. Kragh ed., <i>The Foundations for Yoga Practitioners</i>, 'Introductory Essay' (Harvard UP, 2013)</li> <li>● F. Deleanu, <i>The Chapter of the Mundane Path in the Śrāvakaḥ bhūmi</i> (IIBS, 2006)</li> </ul>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>● U.T. Kragh ed., <i>The Foundations for Yoga Practitioners</i> (Harvard UP, 2013)</li> <li>● M. Delhey, 'The <i>Yogācārabhūmi</i> Corpus' (in Kragh ed. 2013)</li> <li>● F. Deleanu, <i>The Chapter of the Mundane Path in the Śrāvakaḥ bhūmi</i> (IIBS, 2006)</li> <li>● 宇井伯壽『瑜伽論研究』（岩波書店、1958年）</li> <li>● 舟橋尚哉『初期唯識思想の研究』（国書刊行会、1976年）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高崎直道監修『唯識と瑜伽行』（春秋社, 2012 年）</li> <li>● L. Schmithausen, <i>Ālayavijñāna</i> (IIBS, 2007)</li> <li>● W.S. Waldron, <i>Making Sense of Mind Only</i> (Wisdom Publications, 2023)</li> </ul>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業は、原則として日本語で行われるが、必要に応じて英語等でも対応する。</li> <li>● 読解力としては、日本語（中級以上）のほか、サンスクリット語（中級級以上）、漢文〔文言〕（中級以上）、藏文（初級以上）、英語（中級以上）等が望ましい。</li> <li>● 止むを得ない場合は、オンライン授業を行うことがある。</li> </ul>
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26017
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習 2単位
科目ナンバリング	7A2-8 (1-3)
時限	月曜日 2時限目
担当教員氏名	Mark Allon 客員教授 (シドニー大学准教授)
授業題目	An introduction to reading Gandhari Buddhist manuscripts
授業の目的・概要	This series of lectures and text reading sessions will introduce students to Gandharan Buddhism, art, and culture, to the new manuscript discoveries from the region and their importance, and to the Gandhari language and Kharosthi script. The bulk of the series will be taken up through reading sample texts from the new collections.
到達目標	Students will gain the following: <ul style="list-style-type: none"> <li>• A general understanding of the forms of Buddhist found in ancient Gandhara and of Gandharan art and culture;</li> <li>• An overview of the new manuscript discoveries from the region, the types of texts they preserve, and their importance.</li> <li>• A preliminary understanding of the Gandhari language and its relationship to Sanskrit and other Prakrits.</li> <li>• The ability to read the Kharosthi script.</li> <li>• A grounding in reading Gandhari manuscripts.</li> <li>• A furthering of their ability to engage critically with versions of Buddhist texts preserved in different languages and an introduction to dealing with Gandhari texts that lack parallels and most likely represent local Gandhari compositions.</li> </ul>
授業計画	<p><b>Lecture 1:</b> In this lecture I will give an account of the history of Buddhism in Gandhara, artistic expressions and innovations, and the importance of the region to the spread of Buddhist to Central Asia and China, then discuss the new manuscript discoveries and the impact they are having on our understanding of Buddhism in Gandhara and beyond. I will also discuss the digital platform we have developed for collaborative research and for the publishing of Gandharan Buddhist manuscripts and inscriptions, which is the foundation for their digital repatriation to the communities from which these important cultural artifacts originate, and the resources available for studying Gandhari manuscripts.</p> <p><b>Lecture 2:</b> In this lecture I will give an overview of the Gandhari language and its relationship to Sanskrit, Pali and other Prakrits, and an account of the Kharosthi script and scribal hands. I will discuss the materiality of Gandharan birch bark manuscripts and how we work with these manuscripts, which are not uncommonly fragmentary, and “wrestle” an edition, translation, and study out of them. I will conclude with a discussion of the relationship between these Gandhari texts and their parallels in other languages (Pali, Sanskrit, Chinese) and what this tells us about the transmission of early Buddhist literature.</p> <p><b>Remaining lectures:</b> The remaining lectures, or better, reading sessions, will focus on reading Gandhari manuscripts. We will begin with a reading of the Gandhari version of the introductory section of the <i>Sāmaññaphala-sutta</i> / <i>Srāmanyaphala-sūtra</i> in conjunction with its Pali and Sanskrit parallels (with further reference to the Chinese parallels). The Gandhari texts read in the remaining sessions will be decided in conjunction with staff and students. This might include verse texts, such as the <i>Dharmapada</i>, a <i>Mahāyāna</i> text, such as the <i>Pratyutpannabuddhasammukhāvasthitasamādhi-sūtra</i>, and local Gandharan compositions, such as Buddhist Stotra.</p>

授業の方法	This course will be conducted in English. It combines lectures and reading seminars. Students will be introduced to the Gandhari language, its relationship to Sanskrit, Pali, and other Prakrits, as well as the Kharosthi script and the material features of Gandharan manuscripts. The course also includes close reading and comparative analysis of Gandhari texts alongside their Pali, Sanskrit, and Chinese parallels.
教員から学生へのフィードバック方法	In-class feedback on student engagement and contribution to discussions.
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	Evaluation through student's participation and engagement with the text and topic at hand.
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	(a) Preparation: 120 min (b) Review: 120 min  <ul style="list-style-type: none"> <li>Review the content of the previous class and prepare material for the upcoming class.</li> <li>The class content will be announced in advance, and students are expected to prepare accordingly. After the class, review and summarize the contents.</li> </ul>
テキスト	A Gandhari version of the <i>Sāmaññaphala-sutta</i> / <i>Śrāmanyaphala-sūtra</i> : Manuscript no. 2 in the Robert Senior Collection (unpublished).  – further texts to be read will be announced as we progress.
参考文献	Allon, Mark. 2024. “Notes on a Gandhari Version of the Discourse on the Fruits of Living the Ascetic Life (Pali <i>Sāmaññaphala-sutta</i> , Sanskrit <i>Śrāmanyaphala-sūtra</i> ): Robert Senior Kharoshthi Manuscript RS 2.” In Charles DiSimone and Nicholas Witkowski, eds. <i>Buddhakṣetrapariśodhana: A Festschrift for Paul Harrison</i> , pp. 1–28. Marburg: Indica et Tibetica Verlag.  – an introductory bibliography for Gandhari, Kharosthi, and Gandhari manuscript studies will be provided at the beginning of the course.
履修上の注意	Participants must have a descent knowledge of English and Sanskrit; also helpful would be a basic knowledge of Pali.
連絡方法	Via email

科目番号	26018
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7B1-8 (1-3)
時限	金曜日 2時限目
担当教員氏名	斉藤 明 特任教授
授業題目	インド大乘仏教思想史研究
授業の目的・概要	周知のように、非有非無や不苦不楽の中道説は、仏教思想の基本的な立場を表明する。＜縁起＞を根拠にしたこの中道説は、2~3世紀のナーガールジュナ（龍樹）によってその意義が再認識され、『中論』を起点とする「中観」思想をもたらすことになる。4~6世紀には大乘仏教を代表する部派となった瑜伽行・唯識学派と、6世紀以降のインド仏教史に多大な影響力をもった中観学派の両学派が、一面では、中道の本家争いともいえる活発な論議を展開した。この授業では、昨年度に引きつづき、瑜伽行派の思想を基礎づけたヴァスバンドゥ（世親 400-480 頃）作『唯識三十頌』およびスティラマティ（安慧 510-570 頃）の注釈にみる唯識説とその関連思想を、テキストを精読しながら講義する。
到達目標	インド大乘仏教思想史を適確に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2 <中道>理解をめぐる瑜伽行・唯識派と中観派 3-15 『唯識三十頌釈』 <i>Triṃśikāvijñaptibhāṣya</i> 講読 冬学期 1-15 『唯識三十頌釈』 <i>Triṃśikāvijñaptibhāṣya</i> 講読
授業の方法	講義と関連テキストの講読を中心とし、必要に応じて関連資料（写本コピー等）を配布して利用する。積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）により、通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	毎回の予習には3時間以上、復習には1時間の時間をかけること。
テキスト	H. Buescher, <i>Sthiramati's Triṃśikāvijñaptibhāṣya</i> . ÖSW 768, 2007. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	梶山雄一他『唯識三十論』『世親論集』（大乘仏典 15）中央公論社,1976. 桂紹隆他編『唯識と瑜伽行』（シリーズ大乘仏教 7）春秋社, 2012. 斎藤明他編『空と中観』（シリーズ大乘仏教 6）春秋社, 2012. その他は、授業の中で随時紹介する。
履修上の注意	丹念な予習・復習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26019
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7B1-8 (1-3)
時限	金曜日 3時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	原始仏教・初期仏教の思想と倫理
授業の目的・概要	原始仏教あるいは初期仏教と称される仏教の思想を概観し、仏教の教理の基礎を理解する
到達目標	仏典の言語の性格を把握し、文献分析の基礎的方法を理解し、的確な内容分析能力を習得する。
授業計画	夏学期 第1回 概説 第2回 仏典の言語 第3-5回 原始仏教の倫理的 성격 第6-8回 倫理成立の基礎 第9-11回 社会倫理の基本思想 第12-15回 倫理実践の規範 冬学期 第1-5回 苦の解釈 第6-10回 空の教義 第11-15回 涅槃
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、質問や疑問を出し合って、テーマについての議論を深める。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	授業の中で紹介する。
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	授業に積極的に参加し、十分な学術知識の習得に努めることが望まれます。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26020
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7B2-8 (1-3)
時限	水曜日 2時限目
担当教員氏名	斉藤 明 特任教授
授業題目	インド仏教思想関連文献講読
授業の目的・概要	インド仏教思想史上の主要なテキストを講読する。今年度は、昨年度に引き続き、中観学派を確立したパーヴィヴェーカの主著『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> の中の第4「声聞の真実確定 [説] への [批判的] 入門」章を、注釈『論理炎論』 <i>Tarkajvālā</i> とともに講読する。同章は著者が展開する大乘仏説論、および注釈において詳説される部派分裂史に関する資料としても貴重である。同章の内容と背景を分析・解説しながら、丹念に読み進める。今年度は Eckel 校訂本の p. 347 以降の、著者による大乘仏説論を中心とする箇所を読む。サンスクリット語文法に関する基礎知識が望まれる。
到達目標	サンスクリット語で著された仏教論書の読解力を身につけるとともに、適確な内容理解を目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2-15『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> および注釈『論理炎論』 <i>Tarkajvālā</i> 第4章講読 冬学期 1 導入と解説 2-14『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> および注釈『論理炎論』 <i>Tarkajvālā</i> 第4章講読 15 総括
授業の方法	演習形式を基本とし、それぞれの文献の内容および研究史に関する解説を交える。授業では、テキストの読解ならびに内容に関する積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）により、通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には4時間以上、復習には1時間の時間をかけること。
テキスト	M. D. Eckel, <i>Bhāṅviveka and His Buddhist Opponents</i> , Harvard Oriental Series 70, 2008. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	斎藤明「中観思想の成立と展開」『空と中観』（シリーズ大乘仏教6）春秋社、2012, pp. 3-41. その他は、授業の中で随時紹介する。
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26021
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7B2-8 (1-3)
時限	木曜日 2時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	Mātrceta, Varṇāhavarṇastotra 講読
授業の目的・概要	仏教文学の一分野として讃仏偈があるが、その代表的な詩人 Mātrceta の代表作 Varṇāhavarṇastotra を読み、讃仏偈の成立背景と伝承を理解することを目的とする。
到達目標	サンスクリット語仏教文学の読解力を身につけ、断片写本の読み方を学び、あわせてチベット語訳との対応関係を理解する。
授業計画	夏学期 第1回 Mātrceta 作品概観 第2回 中央アジア梵文写本概説 第3-15回 Varṇāhavarṇastotra 講読 冬学期 第1-15回 Varṇāhavarṇastotra 講読
授業の方法	テキストを講読し、チベット語訳との対応を分析し、問題点を議論する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	Das Varṇāhavarṇastotra des Mātrceta, herausgegeben und übersetzt von Jens-Uwe Hartmann. (Sanskrittexte aus den Turfanfunden XII). Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1987.
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	丹念な予習と復習が望まれます。 サンスクリット語の基礎知識が必要です。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26022
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7C1-8 (1-3)
時限	水曜日 2時限目
担当教員氏名	大久保 良峻 教授
授業題目	天台教学研究―『維摩経文疏』を読む―
授業の目的・概要	日本仏教の中核とも言える比叡山の仏教は、天台法華宗とも言われるように、中国天台の法華教学を基盤とする。天台教学は智顛の講説に基づく天台三大部に依拠して論じられることが多い。しかし、他にも多くの文献が伝えられているのであり、中でも『維摩経文疏』は智顛の晩年における思想を知るための最重要書である。本書は鳩摩羅什訳『維摩詰所説経』の経文を解釈したものであるが、同時に天台教学を説示したものと言える。本書、或いはその略抄本である『略疏』には独特の教義も見られ、それらが日本天台に与えた影響も少なからざるものがある。本書から導かれる様々な問題点を探りつつ、講読していくことにしたい。
到達目標	天台教学に立脚した『維摩経』の解釈を理解する。
授業計画	『維摩経文疏』巻一の冒頭から読み始める。訓読、及び口語訳を行う。 夏学期 第1回 概説 第2回～第15回 『維摩経文疏』講読 冬学期 第1回～第15回 『維摩経文疏』講読
授業の方法	発表形式とするので、担当者は各自の興味や習熟度に従って、必要と思われる補助的資料を準備する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中に、その都度、口頭でコメントする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の内容を予習・復習に、4時間をかけること。
テキスト	版本、及び卍統蔵経（新文豊版）27所収本を用いる。
参考文献	佐藤哲英『天台大師の研究』百華苑。 大久保良峻『台密教学の研究』法藏館。 藤井教公「智顛撰『維摩経文疏』訳註」（『国際仏教学大学院大学 研究紀要』第17号～）。 その他については、教場で指示する。
履修上の注意	原典の忠実な読みを心掛けて下さい。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26023
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7C1-8 (1-3)
時限	火曜日 5時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	金剛寺蔵北本『涅槃経』巻十の研究
授業の目的・概要	<p>金剛寺蔵北本『涅槃経』巻十は平安時代中期の書写であり、その書風は和様をほどよく呈している。さらに奥書に朱字で「僧寂照持経也」とある。この僧寂照が所謂大江定基（962 頃～1034）とするならば極めて貴重な資料となるが、果たしてこの仮説は実証されるのであろうか。</p> <p>本写経はおよそ冒頭二紙を欠いているが比較的良好な状態で残っている。さらに古風な訓点が散見するが、これは園城寺（三井寺）で主に用いられていた西蓋点である。訓点だけで時代を特定することは困難に違いないが、カナ字体「サ」と「タ」に特殊な書体が見られる。これらの用例はまさに 950 年頃から 1050 年頃にかけて用いられていた書体である。さすれば「僧寂照」は歴史上著名な「寂照法師」となるが、放射性炭素年代測定法に依る科学調査の結果は、1050 年プラスマイナス 30 年と出た。つまり 1020 年から 1080 年の写本ということになる。寂照法師は入宋僧であり、彼の地で客死しているが、入宋した時期は 1003 年頃と言われているので寂照持経本とするには疑問が残る。ただ、この科学的調査に用いられた試料は剥落していた微量（1 ミリグラム以下）な紙片であって正確な検査が出来る 10 ミリグラムに達していないので更なる考証の余地が残っている。</p> <p>寂照は源信の弟子寂心の弟子であった。源信の著述を宋国へ送ることになり入宋した。寂照の書する文字を見た宋人は、その書風の絶品なることに皆驚き、やがて皇帝の謁見するところとなった。寂照の書は王羲之・王献之の「二王の迹」ということで真宗皇帝（在位 997～1022）から大師号（円通大師）が授けられたという。「中国人を驚かした寂照法師の書」（神田喜一郎）であるが、残念ながら一点もその書は残っていない。</p> <p>金剛寺蔵北本『涅槃経』は寂照なる僧が所持していた經典であるが、通常の經典書体と異なり一段と和様化した書風と言って良い。ここに本書を歴史学、訓点学史、仏教学の本文研究、科学的調査等の多方面から研究する価値があると認められる。</p>
到達目標	金剛寺蔵北本『涅槃経』巻十にまつわる諸学問的研究を身につけることが目標である。特に訓点に依る読解法を習得することが求められる。
授業計画	<p>夏学期：①天野山金剛寺の歴史。②金剛寺一切経。③金剛寺聖教。④園城寺（三井寺、寺門）の歴史。⑤金剛寺一切経北本『涅槃経』文献紹介。⑥中世一切経・聖教文献の取り扱い。⑦平安時代写経の特徴。⑧写経用紙楮紙。⑨各自読解箇所の分担を決定し輪読を行う。輪読 1。⑩輪読 2。⑪輪読 3。⑫輪読 4。⑬輪読 5。⑭輪読 6。⑮夏学期総括。</p> <p>冬学期：①輪読 7。②輪読 8。③輪読 9。④輪読 10。⑤輪読 11。⑥輪読 12。⑦輪読 13。⑧輪読 14。⑨輪読 15。⑩翻刻終了後に日本歴史学・天台教学史上における本書の位置について考察。⑪同考察 2。⑫同考察 3。⑬同考察 4。⑭同考察 5。⑮まとめ。</p>
授業の方法	受講生が担当した翻刻・訓読・訳注のレポートについて適宜問題点を指摘し、レヴェルアップを図る。また関連資料を図書館その他から取り寄せ、その解読を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。

教員から学生への フィードバック方法	受講生の担当箇所の発表後に整理した翻刻・訓読・訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって翻刻・訓読・訳注が合格点に達成することを期す。
学位授与方針との 関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価。
準備学習（予 習・復習等）の 具体的な内容及 び必要な時間	予習には文献資料の読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して翻刻・訓読・訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。2時間以上復習に当てる。
テキスト	金剛寺一切経北本『涅槃経』。図書館の日本古写経データベースからカラープリント。
参考文献	『金剛寺一切経の総合的研究と金剛寺聖教の基礎的研究』（科研基盤研究(A)15202002. 2003年～2006年）報告書。 『天野山金剛寺善本叢刊』3巻（勉誠出版。平成30年）。 『園城寺の研究』天台宗寺門派御遠忌事務局編。昭和6年。
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	26024
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7C1-8 (1-3)
時限	金曜日 3時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業題目	漢文大蔵経史研究—10～14世紀
授業の目的・概要	東アジア仏教にとって、漢文大蔵経を中心とする漢文仏教典籍はその思想文化の源流であり、また常に思想・信仰上の拠りどころ、基盤であり続けてきた。この授業では、漢文大蔵経の歴史を俯瞰した上で、特に10から14世紀にかけて現れた刊本大蔵経を中心に、それらの成立・変遷や、周辺諸国への伝播と後世への影響などについて、体系的に解説する。
到達目標	10～14世紀の漢文大蔵経史を俯瞰的に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 第1-3回 漢文大蔵経史の概説 第4-8回 刊本大蔵経の研究史 第9-13回 福州版大蔵経の雕造史 第14-15回 ディスカッション・総括 冬学期 第1回 復習と概説 第4-8回 福州版大蔵経研究の問題点 第9-13回 福州版大蔵経研究の展望 第14-15回 ディスカッション・総括
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、必要に応じて参考資料も配布する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	野沢佳美『印刷漢文大蔵経の歴史—中国・高麗篇』、東京：立正大学情報メディアセンター、2015年。
参考文献	李富華・何梅『漢文仏教大蔵経研究』、北京：宗教文化出版社、2003年。 李際寧『仏経版本』（中国版本文化叢書）、南京：江蘇古籍出版社、2002年。 京都仏教各宗学校連合会編『新編大蔵経—成立と変遷』、京都：法蔵館、2021年。 池麗梅『宋元版大蔵経研究』、京都：法蔵館、2026年。
履修上の注意	予習・復習と、積極的な授業参加が望まれる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26025
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7C2-8 (1-3)
時限	金曜日 5時限目
担当教員氏名	大久保 良峻 教授
授業題目	日本密教文献講読—安然撰『菩提心義抄』を読む—
授業の目的・概要	<p>安然是天台密教（台密）の大成者として知られ、その業績が日本仏教の諸学匠に与えた影響は頗る大きい。安然が著した教学上の代表的撰述の一つが『菩提心義抄』（『胎藏金剛菩提心義略問答抄』）であり、本書では藏・通・別・円・密という五教判によって議論を展開している。そもそも、日本の密教は、空海以後、しばらくは台密が主流となる。日本密教という大きな流れを見る上で、安然についての知識を持つことは重要である。安然の教学が台密の綱格となることは言うまでもないが、東密の学匠によっても研究された。また、日本仏教史上、安然の着想による新展開も多いことを認識する。</p>
到達目標	安然の教学について、その意義や特色を理解する。仏教漢文に習熟する。
授業計画	<p>『菩提心義抄』を昨年度の続き（巻一）から講読する。訓読、及び口語訳を行う。</p> <p>夏学期</p> <p>第1回 天台密教概説 第2回 『菩提心義抄』概説 第3回～第15回 『菩提心義抄』講読</p> <p>冬学期</p> <p>第1回～第14回 『菩提心義抄』講読 第15回 総括</p>
授業の方法	発表形式とするので、担当者は各自の興味や習熟度に従って、必要と思われる補助的資料を準備する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中に、その都度、口頭でコメントする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の内容を予習・復習に、4時間をかけること。
テキスト	大正新脩大藏経 75 所収『胎藏金剛菩提心義略問答抄』
参考文献	大久保良峻『台密教学の研究』（法藏館）。 その他については、教場で指示する。
履修上の注意	原典の忠実な読みを心掛けてください。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	26026
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7C2-8 (1-3)
時限	木曜日 3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜經』と地婆訶羅訳『金剛般若波羅蜜經破取著不壞仮名論』（その2）
授業の目的・概要	<p>本演習は前年の継続である。平安初期書写と想定される五島美術館蔵の『注金剛般若波羅蜜經』は近年注目された文献資料である。かつて川瀬一馬博士が本資料を調査されたが書写年代についての考察に止まり、成立年代や著者等についての考察は行われていなかった。筆者と青木佳伶氏の調査で詳細な法量が分かり、本文の研究に着手したが全容の解明にまでは至っていない。</p> <p>今までの取り組みでは永淳二年（683）に地婆訶羅訳した『金剛般若波羅蜜經破取著不壞仮名論』（以下『不壞仮名論』）と密接な関係があると分かってきた。この翻訳は宇井伯壽博士が研究と訓読をされている（『大乘仏典の研究』岩波書店）。それに依れば著者は明らかにインド仏教中観派の学匠（功德施 Gunadatta, SrIdatta）であるという。この功德施なる人物は玄奘と義浄のナーランダ寺院滞在の狭間に活躍したようであり、義浄の報告の中に人名を記していない中観派の学匠ではないかと論証されている。</p> <p>もしこの説が正しいとすると地婆訶羅訳『不壞仮名論』は当時におけるインド中観仏教の論書の翻訳であるとなるが、五島美術館蔵の『注金剛般若波羅蜜經』はその影響下に生まれた研究書となる。本演習では新出文献の解説作業がどのように行われるのか解説するとともに未解説箇所解明に参加者はチャレンジして欲しい。</p>
到達目標	<p>新出の文献を解説する作業には広範囲な知識と方法論が求められる。文献資料の書写年代に始まり、文献そのものの成立年代そして著者を探り確定していかなければならない。書写年代に関しては紙質・墨・法量・書法等の分野から考究し、偽写本の可能性を否定し、古代もしくは中世の文献と想定される段階まで必要である。次に文献資料を読み始めていく上で異体字・書写文字を現行の文字に比定し翻刻を行う。作業としては第一段階で全文の翻刻を行う。難読・未詳文字などは取り敢えず■等の記号で処理し進める。初期の全文翻刻のデータを利用して次に未解説文字の前後を比較して一字一字少しでも確定していく。</p>
授業計画	<p>概略前年度の復習をしながら全体の把握に努める。</p> <p>夏学期①概説1：『金剛般若經』釈論の研究史。②同概説2。③地婆訶羅訳『金剛般若波羅蜜經破取著不壞仮名論』1。④同2。⑤同3。⑥同4。⑦同5。⑧七～八世紀インド中観派の動向。⑨同2。⑩同3。⑪五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜經』の書写年代。⑫同本の成立。⑬同本の著者。⑭同本の翻刻。⑮翻刻2。</p> <p>冬学期①夏学期の続き。五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜經』の翻刻3。②同4。③同5。④同6。⑤同7。⑥同8。⑦『金剛般若波羅蜜經破取著不壞仮名論』と『注金剛般若波羅蜜經』比較対照研究。⑧同研究2。⑨同研究3。⑩同研究4。⑪同研究5。⑫同研究6。⑬同研究7。⑭同研究8。⑮まとめ。</p>
授業の方法	<p>受講生が担当した翻刻・訓読・訳注のレポートについて適宜問題点を指摘し、レヴェルアップを図る。また関連資料を図書館その他から取り寄せ、その解説を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。</p>
教員から学生へのフィードバック方法	<p>担当箇所の発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。</p>

学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には文献資料の読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して翻刻・訓読・訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。2時間以上復習に当てる。
テキスト	五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜経』を随時プリントする。ただ本プリントの扱いは細心の注意を要する。不用意に他人に見せたり複写させたりすることは慎むように。 大正蔵本地婆訶羅訳『金剛般若波羅蜜経破取著不壊仮名論』（各自コピーすること）
参考文献	宇井伯壽著『大乘仏典の研究』（岩波書店。1979年）。 梶芳光運著『金剛般若経』（仏典講座6。大蔵出版。1972年）
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。新型ウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	26027
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7C2-8 (1-3)
時限	金曜日 4時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業題目	『続高僧伝』講読
授業の目的・概要	写本テキストの翻刻・校訂などの基礎訓練を行い、漢文の現代語訳に習熟し、テキスト内容を正確に理解した上で、的確な解釈もできるようになることを目標とする。
到達目標	夏学期 第1-2回 『続高僧伝』の概説 第3-14回 「釈僧崖伝」講読 第15回 ディスカッション・総括 冬学期 第1-2回 復習と概説 第3-14回 「釈大志伝」講読 第15回 ディスカッション・総括
授業計画	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻刻・校訂・現代語訳するだけではなく、内容の分析、その背後にある思想的背景を併せて考察する。
授業の方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
教員から学生へのフィードバック方法	東アジア仏教文献の代表的なテキストを順次取りあげていくが、今年度は『続高僧伝』（巻27「遺身篇」）を講読する。『続高僧伝』は、中国中世の歴史・文化・思想にとどまらず、東アジア仏教文化史・文化交流史を研究する上で、不可欠な基礎的文献である。この授業は、日本古写経テキストを使用して、同書のテキスト変遷、僧伝成立の歴史的・思想的背景、戒律思想の展開などを総合的に検討することを目的とする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	金剛寺本・興聖寺本・七寺本『続高僧伝』（巻27「遺身篇」）
参考文献	必要に応じて関連資料を配布して利用する。
履修上の注意	積極的な授業参加と活発な討論が期待される。担当者は発表原稿を人数分用意すること。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26028
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と生命倫理） 2単位
科目ナンバリング	5-2（1-3）
時限	集中講義（夏学期） ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山 泰弘 講師（元埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と生命倫理
授業の目的・概要	人工授精や臓器移植など生命に関わる技術の進展は現代の生命科学の大きな達成であるが、それが人間生活にもたらす意味については哲学や宗教などさまざまな分野から問題提起がなされている。この授業の目的は、この問題を仏教との関わりにおいて把握することにある。はじめに生命倫理をめぐる諸問題について概観し、次いで具体的な問題を探り上げて、仏教の生命観の理解を試みる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命倫理に関わる現実の諸問題が多岐にわたること、およびそれに対してさまざまな思想的アプローチが可能であることを理解する。</li> <li>・生命倫理の問題が仏教の中にどのように位置づけられるかということについて、理解を深める。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命倫理と科学技術</li> <li>2. 医療倫理の現状（1）：「共同意思決定」</li> <li>3. 医療倫理の現状（2）：ケア倫理</li> <li>4. 仏教と現代の倫理思想（1）：義務論と帰結主義</li> <li>5. 仏教と現代の倫理思想（2）：徳倫理</li> <li>6. 仏教と不殺生（1）：Keown</li> <li>7. 仏教と不殺生（2）：Schmithausen</li> <li>8. 仏教と社会倫理</li> <li>9. 仏教と個人倫理</li> <li>10. 「生殖医療」</li> <li>11. 「受胎」</li> <li>12. 「自殺」</li> <li>13. 「脳死」</li> <li>14. 「安楽死」</li> <li>15. 仏教と生命倫理</li> </ol>
授業の方法	上記授業計画の内容に従って関連資料を配付して概略を説明し、討論を行いながら理解を深めていく。討論のなかで新しいテーマが出てきたときは、関連する資料を追加して知識を積み上げ、より本質的な問題の把握を試みる。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中あるいはメールによって個別にコメントする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点にて各学期で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には1時間、復習には3時間の時間をかけること
テキスト	毎回資料を配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Keown, Damien. : Buddhism and Bioethics. Palgrave 2001.</li> <li>・ 和辻哲郎『原始仏教の実践哲学』（和辻哲郎全集第5巻）</li> </ul>
履修上の注意	特になし。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26029
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と環境問題） 2単位
科目ナンバリング	6-2（1-3）
時限	集中講義（冬学期） ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山 泰弘 講師（元埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と環境問題
授業の目的・概要	この授業の目的は、環境問題について仏教の視点から検討を加えることである。はじめに現代の環境問題を概観し、この問題の背景にある科学主義的な思考について、思想史的な立場から批評を行う。次に仏教の多様な自然観と、それを支える価値意識について理解を試みる。最後にインドの思想伝統における仏教倫理の特質について考察する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の環境倫理が提起する諸問題について、仏教独自の価値意識を考慮しながら理解を深める。</li> <li>・仏教倫理の価値意識について、他の倫理思想との比較のもとに理解を深める。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;環境問題と環境倫理&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の環境問題</li> <li>2. 「沈黙の春」</li> <li>3. 水俣病</li> <li>4. 福島原発事故</li> </ol> <p>&lt;仏教の自然観&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 非暴力</li> <li>6. 慈しみ</li> <li>7. 無執着</li> <li>8. 如実知見</li> </ol> <p>&lt;仏教学と自然倫理&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 自然の価値（1）：理論的側面</li> <li>10. 自然の価値（1）：実践的側面</li> <li>11. 「植物」</li> <li>12. 「仏性」</li> </ol> <p>&lt;仏教倫理の特質&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 一神教の倫理：ゾロアスター教</li> <li>14. 共同体の倫理：バラモン教</li> <li>15. 現世放棄者の倫理：仏教</li> </ol>
授業の方法	上に述べたテーマに関連する資料を紹介してその概要を説明し、随時出席者の意見を求める。出席者間での意見交換を通じて資料の理解を深め、さらに関連する資料を配布共有して背景にあるテーマを絞り込む。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にコメントする。またはメールにて個別にコメントする。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点をもって評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には1時間、復習には3時間の時間をかけること。
テキスト	毎回資料を配布する。
参考文献	・阪本(後藤)純子 『生命エネルギー循環の思想 ― 「輪廻と業」理論の起源と形成―』 RINDAS 24, 2015.

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 原実「不殺生考」国際仏教学大学院大学研究紀要 1 (1998) pp. 1-37.</li><li>・ Schmithausen, Lambert : Buddhism and Nature, Studia Philologica Buddhica Occasional Paper Series VII, The International Institute for Buddhist Studies of the International College for Advanced Buddhist Studies, Tokyo, 2003.</li></ul>
履修上の注意	特になし。
連絡方法	初回の授業で説明する。

## 関連科目

科目番号	26030
科目名・単位数	民俗学 4単位
科目ナンバリング	8-4 (1-5)
時限	集中講義(夏・冬学期) ※日程は、別途お知らせします。
担当教員氏名	鈴木 正崇 講師(慶應義塾大学名誉教授)
授業題目	[夏学期] 山岳信仰と民俗 [冬学期] 民俗学・人類学の現在
授業の目的・概要	[夏学期]: 山岳信仰の歴史と民俗、民俗社会の信仰の変容を検討する。仏教がどのように地域社会に定着したかも論題とする。 [冬学期]: 近現代の民俗学・人類学の諸問題を検討する。南インド・スリランカ・北東インド・バリの事例も考察する。
到達目標	伝承や縁起や口頭伝承などを通じて、現地調査の重要性を認識すると共に、各地の多様性に満ちた実態を理解する。
授業計画	[夏学期] 1, 三輪山と大和の山岳信仰 2, 大和の修験と山岳信仰 3, 宇佐と国東 4, 「神宿る島」宗像・沖ノ島と山岳信仰 5, 日光山の山岳信仰と芸能 6, 諏訪の歴史と信仰 7, コロナ禍の諏訪御柱祭 8, コロナ禍を飼い慣らす 9, 九州山地の神楽と山岳信仰 10, 奥三河の花祭 11, 比婆荒神神楽 12, いざなぎ流御祈禱 13, 巨大涅槃像と納骨堂 14, 開基伝承から開基イベントへ 15, 成田山門前町の祭りの変遷 [冬学期] 1, 女人禁制と現代 2, 山岳信仰と女人禁制 3, 神楽の近代 4, 宗教民族学と総力戦体制 5, 「近代神話」と総力戦体制 6, 南インドのヒンドゥー寺院の祭祀と芸能 7, 南インドの森と山の信仰 8, スリランカの聖地と仏教遺跡 9, 流転するラーマーヤナ 10, スリランカの女神信仰 11, スリランカの呪術 12, インド北東部・チベット南縁の人々の暮らしと信仰① 13, インド北東部・チベット南縁の人々の暮らしと信仰② 14, インド北東部・チベット南縁の人々の暮らしと信仰③ 15, インドネシア・バリアガの変遷
授業の方法	講義はpptで進める。参考文献の一部はresearch mapにアップして、ダウンロードできるようにする。

教員から学生へのフィードバック方法	授業中に質問時間を設けて対応する。後日、個別に相談などをメールで受け付ける。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習・復習はテキストや参考文献を読み込む。各々2時間ずつ。
テキスト	『山岳信仰—日本文化の根底を探る』（中公新書、2015）、『女人禁制』（講談社学術文庫、2022）
参考文献	『神と仏の民俗』（吉川弘文館、2001）、『熊野と神楽—聖地の根源的力を求めて』（平凡社、2018）、『女人禁制の人類学—相撲・穢れ・ジェンダー』（法蔵館、2021）、『日本の山の精神史—開山伝承と縁起の世界』（青土社、2024）、『山岳信仰と修験道』（春秋社、2025）。『神楽の文化史』（法蔵館、2025）。『ラーマーヤナの宇宙—伝承と民族造形』（春秋社、1998）、『神話と芸能のインド』（山川出版社、2008）、『南アジアの文化と社会を読み解く』（慶應義塾大学出版会、2011）、『アジアの文化遺産—過去・現在・未来』（慶應義塾大学出版会、2015）。
履修上の注意	文献だけでなく、フィールド資料を重視する。
連絡方法	初回の授業で説明する。

## 仏教学特殊研究

聴講生は対象外

科目番号	26101
科目名	仏教学特殊研究
科目ナンバリング	10-0 (1-5)
時限	水曜日 3時限目 (夏学期)
担当教員氏名	<p>代表者： 幅田 裕美 教授</p> <p>大久保 良峻 教授                      落合 俊典 教授</p> <p>齊藤 明 特任教授                      池 麗梅 教授</p> <p>デアヌ フロリン 教授                  幅田 裕美 教授</p> <p>阿部 泰郎 講師 (名古屋大学名誉教授 5月13日担当)</p> <p>野沢 佳美 講師 (立正大学教授 6月 3日担当)</p> <p>沼田 一郎 講師 (東洋大学教授 6月24日担当)</p>
授業の目的・概要	<p>本学教員、並びに外部講師と受講者の学生が現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマ、トピックについて研究発表し、それについて全員による質疑応答を行う。その討議を通じて各人が仏教に対する知見を深めることをこの授業の目的とし、また学生にとっての学会発表、論文作成の訓練の場とする。</p>
到達目標	<p>学生が自ら発表し、あるいは他の受講者の発表を聞いて、研究発表に慣れるとともに、自身の発表の態度や技術などの向上を目指す。また、仏教学上の諸問題について知見を広め、深い理解に達することを目標とする。</p>
授業計画	<p>初回の時に、教員、学生ともに発表の順番と日程を決め、各自一時間内外を持ち時間として、全体で質疑応答、討論を行う。</p>
授業の方法	<p>初回の授業の時に予め発表者を決める。発表予定者は配付資料などを各自が用意して、パワーポイント、スライド、紙資料など、各自それぞれの方法を用いて発表する。</p>
教員から学生へのフィードバック方法	<p>授業中にその都度口頭でコメントする他、配布資料等は添削して返却する。</p>
学位授与方針との関連	<p><a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a></p>
成績評価方法・基準	<p>履修単位は設定されていない。</p>
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及び必要な時間	<p>事前に発表資料やテーマが明らかになっている場合、予習には2時間、復習には2時間程度をかけること。</p>
履修上の注意	<p>全学生は自己の研究上に必須のトレーニングと心得て、必ず出席すること。</p>
連絡方法	<p>初回の授業で説明する。</p>

## 聴講生は対象外

科目番号	26102
科目名	仏教学特殊研究
科目ナンバリング	10-0 (1-5)
時限	水曜日 3時限目 (冬学期)
担当教員氏名	代表者： デレアヌ フロリン 教授 大久保 良峻 教授 落合 俊典 教授 斉藤 明 特任教授 池 麗梅 教授 デレアヌ フロリン 教授 幅田 裕美 教授 山部 能宜 講師 (早稲田大学教授 10月28日担当) 岸野 亮示 講師 (京都薬科大学講師 1月13日担当) 佐々木 佑記 講師 (五島美術館学芸員 2月 3日担当)
授業の目的・概要	本学教員、並びに外部講師と受講者の学生諸君が現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマ、トピックについて研究発表し、それについて全員による質疑応答を行う。その討議を通じて各人が仏教に対する知見を深めることをこの授業の目的とし、また学生諸君にとっての学会発表、論文作成の訓練の場とする。
到達目標	学生諸君が自ら発表し、あるいは他の受講者の発表を聞いて、研究発表に慣れるとともに、自身の発表の態度や技術などの向上を目指す。また、仏教学上の諸問題について知見を広め、深い理解に達することを目標とする。
授業計画	初回の時に、教員、学生ともに発表の順番と日程を決め、各自一時間内外を持ち時間として、全体で質疑応答、討論を行う。
授業の方法	初回の授業の時に予め発表者を決める。発表予定者は配付資料などを各自が用意して、パワーポイント、スライド、紙資料など、各自それぞれの方法を用いて発表する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	履修単位は設定されていない。
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及び必要な時間	事前に発表資料やテーマが明らかになっている場合、予習には2時間、復習には2時間程度をかけること。
履修上の注意	全学生は自己の研究上に必須のトレーニングと心得て、必ず出席すること。
連絡方法	初回の授業で説明する。

## 留學生のための日本語

科目番号	26103
科目名・単位数	日本語 I 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	火曜日 2時限目・金曜日 2時限目
担当教員氏名	宮田 聖子 講師 (東京科学大学非常勤講師)
授業題目	初級・中級前期の日本語 ―初級文型とその応用―
授業の目的・概要	日本語レベル初級及び中級初期 (学習時間 0~400 時間未満) の学生を対象に行う。 日本語の基本構造を習得し、四技能 (話す・聞く・読む・書く) を養う活動へ発展させる。自分の意見をまとめ発表する力を身につける。 日常生活や学内での基本的な活動が問題なく行える日本語コミュニケーション能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験N3 または N2 レベル程度の日本語の力の獲得
授業計画	夏学期 第1回~第4回 初級文型・「話す・聞く」技能 第5回~第8回 初級文型・「読む・書く」技能 第9回、第10回 初級文型・四技能 第11回~第15回 中級文型・四技能 冬学期 第1回~第3回 中級文型・四技能 第4回~第7回 総合・読解・論述 第8回~第13回 総合・読解・論述 第14回、第15回 総合・プレゼンテーション
授業の方法	学習者の日本語レベルに応じたテキストを使用する。必要に応じてクラウド上の共有ドキュメントに学生からのアウトプットを記してもらい、教師からはそれに対するフィードバックなどを記録していく。初級前半においては、予習確認の小クイズ、文法の学習、応用練習を行う。読解の授業では語彙クイズ、読解、文法確認、討論、作文、発表の順に行う。また、毎回宿題を課す。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中に、あるいはクラウド上のドキュメントにて、基本的にはクラスで共有して行う。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点 (授業中の発表を含む) にて通年で評価

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、宿題およびこれから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること
テキスト	受講生の日本語レベルに応じて決定する。
参考文献	『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』スリーエーネットワーク 各国語版文法解説 『TRY! 日本語能力試験N3文法から伸ばす日本語』アスク出版 『中級へ行こう』スリーエーネットワーク
履修上の注意	授業はクラウド上の共有ドキュメントを使用して行う。各自、インターネットにアクセスし共有ドキュメントに日本語を打ち込めるようにPCなどを持参すること。 出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26104
科目名・単位数	日本語Ⅱ 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	火曜日 3時限目
担当教員氏名	宮田 聖子 講師 (東京科学大学非常勤講師)
授業題目	中級後期・上級の日本語 ―学術的活動へ―
授業の目的・概要	日本語レベル中級後半 (初級基礎文型の習得が終了しており、学習時間が概ね450時間程度)以上の学生を対象に行う。 学術論文の読解ストラテジーを獲得する。また、討論、論評する活動を通してテーマについて論述するスキルと、それを口頭発表するプレゼンテーションスキルを養う。 日本語能力試験に向けて総合的なスキルを伸ばす。 日本での研究活動が十分に行えるより高度な日本語能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験N1 レベルまたはそれ以上の日本語力の獲得
授業計画	夏学期 第1回～第7回 文法 第8回～第15回 読解・能力試験対策 冬学期 第1回～第7回 能力試験対策 第8回～第12回 作文指導 第13回～第15回 プレゼンテーション指導
授業の方法	クラウド上の共有ドキュメントに学生からのアウトプットを記す。それに対するフィードバック、重要項目の解説などを教師から加筆し記録していく。 日本語能力試験対策、読解、文法事項確認、討論、作文を行う。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中に、あるいはクラウド上のドキュメントにて、基本的にはクラスで共有して行う。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点 (授業中の発表を含む) にて通年で評価
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、宿題およびこれから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること
テキスト	受講生の日本語レベルに応じて決定する。
参考文献	『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版、 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク 『上級日本語学習者対象 アカデミックライティングのための パラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
履修上の注意	授業はクラウド上の共有ドキュメントを使用して行う。各自、インターネットにアクセスし共有ドキュメントに日本語を打ち込めるように PC などを持参すること。 出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する。

## 留学生のための古文・漢文読解

科目番号	26105
科目名・単位数	古文・漢文読解 I 4 単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	水曜日 4 時限目
担当教員氏名	田戸 大智 講師 (早稲田大学非常勤講師)
授業題目	仏教漢文読解入門
授業の目的・概要	<p>仏教では後漢の頃より仏典の漢訳が開始され、多くの漢訳仏典やそれにもとづく註釈書などが生み出された。仏教思想を解明するためには、正確な読解が要求されることは贅言を要しない。</p> <p>本講義では、伝統的な訓読法を用いて、仏教漢文が読解できるようになることを目的としている。日本では漢文を日本語で解釈するための訓読法が体系化され、仏教漢文もまたこの方法によって理解されてきた。訓読法を習得すれば、文法構造を把握する能力が高まり、感覚的に読むことで起きる間違いを防止できる利点がある。特に日本仏教研究を行うためには、訓読法を習得することが必須である。</p> <p>そこで、訓読による仏教漢文の読解を修練していくために、前期ではまず、テキストにもとづいて基本文法を確認する。次に後期では基本文法を適宜参照しながら、様々な仏教漢文を取り上げ、実践的に訓読法を学習していきたい。後期では、経典や論書、中国の伝記史料、日本の仏教漢文などを読み進めていく予定である。</p>
到達目標	日本の凝然 (1240~1321) が撰述した『八宗綱要』上下2巻 (大日本仏教全書3所収) を訓読できる能力の修得を到達すべき目標としたい。
授業計画	<p>前期</p> <p>1 ガイダンス、訓読の必要性</p> <p>2~3 仏教漢文の学習方法、漢和辞典・仏教辞典の使用法と実習</p> <p>4~5 テキストとプリントの実習 (1~3章)</p> <p>6~7 テキストとプリントの実習 (4~5章)</p> <p>8~9 テキストとプリントの実習 (6~7章)</p> <p>10~11 テキストとプリントの実習 (8~9章)</p> <p>12~13 テキストとプリントの実習 (10~11章)</p> <p>14~15 テキストとプリントの実習 (12~14章)</p> <p>後期</p> <p>1 ガイダンス</p> <p>2~3 『魏書釈老志』・『父母恩重経』</p> <p>4~5 『弥勒上生経』・『大智度論』</p> <p>6~7 『理惑論』・『沙門不敬王者論』</p> <p>8~9 道宣『続高僧伝』・道宣『集神州三宝感通録』</p> <p>10~11 一行『大日経義釈』・曇鸞『浄土論註』</p> <p>12~13 法藏『華嚴五教章』・基『大乘法苑義林章』</p> <p>14~15 諦観『天台四教義』・凝然『八宗綱要』など</p>
授業の方法	毎回配付する資料にしたがって授業を進める。漢文はすべてノートに書き写し、返り点を付けたたり書き下し文に直す作業を繰り返し行う。また声に出して読むことで漢文のリズムを習得する。語彙が不明である場合は、常に漢和辞典や仏教辞典で調べるよう訓練する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントし、訓読の確認を行う。

学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	講義で配付した資料は、予習と復習を通して繰り返し読み込むことが実力の向上につながる。訓読の基本文法はテキストを適宜参照して解説するが、演習問題は各自復習して頂きたい。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	『句形演習 新・漢文の基本ノート〈二色刷〉』（日栄社、1998）を主なテキストとし、『新・要説文語文法〈五訂新版〉』（日栄社、2015）も必携とする。この他、プリントを配付する。
参考文献	加地伸行『漢文法基礎－本当にわかる漢文入門－』（講談社学術文庫、2010）、金岡照光『仏教漢文の読み方』（春秋社、1978）、木村清孝編著『仏教漢文読本』（春秋社、1990）、その他、各辞典などは教場にて指示する。
履修上の注意	①授業では漢文訓読を実習形式で行うので、専用ノートを準備して予習と復習を必ず行う。 ②電子辞書や電子機器類の使用は禁ずる。語彙は必ず辞書で調べるようにする。 ③「古文・漢文読解Ⅱ」の講義を併せて聴講することが望ましい。
連絡方法	メール（初回の授業で確認する）

科目番号	26106
科目名・単位数	古文・漢文読解Ⅱ 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	水曜日 5時限目
担当教員氏名	小島 裕子 講師 (東京都立大学非常勤講師)
授業題目	仏典訓読初学講座
授業の目的・概要	<p>仏典の漢文は記載言語として表わされた古典語（文語）である。たとえ現代中国語を母国語として自在に使用しているとしても、その特殊な文章構造の分析を介した完全な理解という点では次元を異にしよう。こと日本においては、漢字文化の受容とともに、その言語表記を享受するため、日本語によって漢文の文章構造を分析し、正確に文意を解釈するための学問が古来より培われてきた。「訓読（くんどく）」である。</p> <p>本講座は、漢文訓読のなかでも、特に寺院文化圏における学僧が行ってきた仏典訓読の学問を視野に入れ、とりわけ学ぶ機会の稀な「漢訳仏典に対する伝統的な訓読法」の習得をめざす。特に、日本語としての文体を整える上で決め手となる「文語文法」（経典読解に特化した）の解説に重点を置いて授業を行う。</p> <p>実例文献に基づく訓読法（訓点を付して訓読する方法）の教授に併行して、訓読に有用な主要辞典（仏教系・国語系）の使用方法について教示したり、訓読に対する理解を深めるための「日本語表記の変遷」などにも言及したりすることで、文献資料学を究める受講者各自の研究の将来に資する講義でありたい。</p>
到達目標	<p>貴重な仏教文献資料を詳細に読み解いてゆくために必要とされる日本語表記の習得、各種仏教辞典の特徴を把握し、要語項目を読解して実際の研究に生かす能力を身につけることをめざす。</p> <p>漢文の白文に訓点を付す方法を習得することで、訓読の実践に備えるとともに、訓読文の決め手となる文語文法を身に着ける。</p>
授業計画	<p>《夏学期》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 初回到授業の指針を述べる。 「訓読」という学問① 具体的に学僧が訓点を付した写本・版本を紹介し、「訓読」とは何かを学ぶ意識を備えるところから始める。</li> <li>2 「訓読」という学問② 「望月仏教大辞典」から要語を選び、引用された漢文の訓読体を正しい文法理解によって読むことができるかどうか、また旧漢字の表記に対応できるかなどの問題定義を行ない、以後の具体的な授業に臨む姿勢を確認する。</li> <li>3 「訓読」という学問③ 大正新脩大蔵経などに収載の漢訳仏典に対する先学の訓読（国訳一切経・国訳大蔵経・新国訳大蔵経・仏典講座ほか）を紹介した上で、自ら訓読を行う意義について述べる。</li> <li>4 「訓読」という学問④ 自ら「訓読」を行うために必要な主たる仏教学系辞典、および国語学系辞典の紹介を行なった上で、活用の実践に備える。</li> <li>5 「訓読」という学問⑤ 承前の上で、あらためて「日本語表記の歴史と変遷」を学び、具体的な訓読のために必要な素養を備える。</li> <li>5 「ヲコト点」を学ぶ。助詞・角筆などに関する解説。</li> <li>6 「声点」を学ぶ。漢語音・濁点などに関する解説。</li> <li>7-8 「古訓」を学ぶ。古辞書に関する解説。麗しい古訓の存在に具体的にふれることで、訓読に対するさらなる理解を深める。</li> </ol> <p>以下、上記の講義を経て、実践編としての演習を展開する。</p> <p>9-12 「訓読」に要される古典文法を集中的に学ぶ。</p>

	<p>仏典に頻出する【「動詞活用表」作成プロジェクト】義浄訳『金光明最勝王経』の訓読版本（新出・影印）を訓読法習得のための底本に据え、各品の訓読箇所を抽出、訓読の仕方について実際に辞書を引ながら学び、活用の仕方を詳細な文法の解説を通して習得する。この「動詞活用表」は、以後の講義で遇する諸經典内の動詞についても書き込みを続け、年間を通して完成させる。</p> <p>13-15 仏典に頻出する仮定表現について、動詞の活用の型を学び、それに伴う助動詞も同時に習得する。また随時、使用頻度の高い過去・尊敬・受身・使役などの助動詞の習得も促してゆく。</p> <p>《冬学期》</p> <p>夏学期に引き続き、義浄訳『金光明最勝王経』の訓読版本を底本に、以下の項目を実践する。</p> <p>16-19 仏典の型「六時成就（如是・我聞・一時・佛・在某所・与某衆俱）」、「白佛言」、「白〜曰」などを学ぶ。</p> <p>20-23 仏典に頻出する副詞（否定・時間・範囲・程度・状態・語気）について事例・訓読、関連の文法を学ぶ。</p> <p>24-29 様々な経や論から、付訓・訓読・和訳の実践を行う。『観普賢菩薩行法経』『摩訶止観』『中論』ほか、随時、要に応じて訓読の対象を選びつつ実践を積むこととしたい。</p> <p>30 年度内総括、および今年度の「動詞活用表」完成版の提出。</p>
授業の方法	<p>講義と演習（習熟のための練習）を繰り返すことで、受講者のリテラシーの向上をはかる。併行して年間を通じ、一般古典の文法書に挙がる用例では不十分な「仏典に頻出する動詞」について、その活用と仮名訓を一覧できる独自の【「動詞活用表」作成プロジェクト】を受講生とともに遂行、当該教室における成果として構築してゆく。表の作成は文字の記入のみに止まらず、声に出して復唱する実践を伴うことで、記憶的な効果へと繋げる。</p>
教員から学生へのフィードバック方法	<p>授業内に必要に応じてコメントをするほか、メールなどでの相互連絡の上、個別に対面に対応することも可。</p>
学位授与方針との関連	<p><a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a></p>
成績評価方法・基準	<p>平常点にて通年で評価。</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	<p>各自、毎回の講義で配布する参考資料をファイリングし、受講前の予習として必ず目を通した上で授業に参加すること。蓄積されゆく資料を重ねて通読することを通して、次第に理解は深まる。</p> <p>受講後は必ず授業内容を反芻し、次回の授業に備えること。準備学習として、予習に120分、復習に120分程度の時間を要する。</p>
テキスト	<p>訓点入りの仏典資料（影印）を配布し、「訓読とは何か」を理解するための資料とするとともに、毎講義時に補足テキストとしてプリントを配布する。文語文法の解説書として『新・要説文語文法（五訂新版）』（日栄社）、辞書として『新版古語辞典（机上用）』（角川書店）を各自の必携とする。</p>
参考文献	<p>中村元-仏教語大辞典、望月信亨-仏教大辞典、織田得能-仏教大辞典、岩本裕-日本仏教語辞典など各種仏教系辞典。日本国語大辞典-小学館、新漢和大事典-学研、日本語文法大辞典-明治書院など各種国語系辞典。異体字やくずし字辞典などの字典類、および古辞書類など。講義時に随時、紹介してゆく。</p>

履修上の注意	<p>本講座は、仏教文献資料学を遂行するために必要な基礎を学ぶ留学生の読み書き、リテラシーの向上をめざして開設する。日本語習得のステップを踏みながらの受講であることを配慮し、説明などは懇切に行ってゆくことを心がけるが、基礎を修めるということにおいて、日本語を母国語とする者と何らレベルの上で変わらぬ有益な内容を提示することを断っておきたい。</p> <p>併設の「古文・漢文読解Ⅰ」とともに受講することが望ましい。</p>
連絡方法	メール（初回の授業で確認する）

## 未修者のためのサンスクリット語

科目番号	26107
科目名・単位数	サンスクリット語 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	木曜日 4時限目
担当教員氏名	河崎 豊 講師 (東京大学アジア研究図書館助教)
授業題目	サンスクリット語文法入門
授業の目的・概要	<p>【概要】</p> <p>サンスクリット語未修者を対象として、市販の教科書を用いてサンスクリット語の初級文法を学習する。</p> <p>【目的】</p> <p>サンスクリット語で書かれた原典を読解するために必要となる、サンスクリット語の基礎的な知識を習得することがこの授業の目的である。</p>
到達目標	サンスクリット語文法の基礎を習得し、簡単な文章であれば翻訳を参照せずとも辞書や文法書を用いて自力で読むことができるようになる。
授業計画	<p>サンスクリット語は覚えることの多い煩瑣な言語であるため、基本的にはゆっくりと進む予定である。しかし受講者の理解度によっては、ペース配分を変更する。例えば冬学期第14回以降に設定している撰文読解を前倒しし、より多くの撰文読解を行うなど。</p> <p>【夏学期】</p> <p>第1回：導入、音韻について  第2回～第3回：階梯、母音交替、連声  第4回：連声、a語幹名詞  第5回～第11回：a語幹以外の名詞、練習問題  第12回～第14回：比較・最上級、各種代名詞、数詞等、練習問題  第15回：練習問題、動詞総説</p> <p>【冬学期】</p> <p>第1回：夏学期の振り返り、現在語幹第一種活用  第2回～4回：練習問題、現在語幹第二種活用  第5回～7回：練習問題、未来・アオリスト・完了語幹  第8回～11回：練習問題、使役・第10類動詞・意欲・強意語幹等  第12回：練習問題、複合語  第13回：練習問題、シンタクス  第14回～第15回：撰文読解</p>
授業の方法	教科書の記述順に沿って解説する。教科書では不足する点あるいは誤解を招きかねない記述については、都度資料を配布して補足する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要な時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 予習・復習それぞれ最低でも120分を用いること。各回とも宿題が課せられるので、その準備時間も含まれる。</li> <li>● 十分な予習時間を確保できなかった場合も必ず出席してノートを取り、当該回で学んだ内容をしっかりと復習すること。</li> </ul>

テキスト	J.ゴンダ『サンスクリット語初等文法』東京：春秋社.
参考文献	吹田隆道『実習サンスクリット文法』東京：春秋社. 赤松明彦『サンスクリット入門』東京：中央公論新社.
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>● この授業はサンスクリット語未修者を対象とするが、復習のために参加を希望する学生を妨げない.</li> <li>● 語学学習という授業の性質上、可能な限り欠席をしないことが求められる.</li> <li>● 最終的には、「自分にとってわかりやすい文法摘要」を自作し、わからないことがあればその「摘要」を見返す習慣をつけることを、強く推奨する.</li> </ul>
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	26108
科目名・単位数	サンスクリット語（中級） 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	木曜日 5時限目
担当教員氏名	河崎 豊 講師（東京大学アジア研究図書館助教）
授業題目	サンスクリット文献講読
授業の目的・概要	<p><b>【概要】</b> サンスクリット語初級文法を履修済の者を対象として、比較的平易なサンスクリット文で書かれた文献を講読する。</p> <p><b>【目的】</b> 初級文法で得た知識を定着させ、かつ今後自力でサンスクリット文献を読む際に必要となる各種辞典や文法書を十分に利用できるようにする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サンスクリット語の文法事項をよく理解し、各種工具書を十分に活用することができるようになる。</li> <li>● 中級程度のサンスクリット文を、既存の翻訳を参照せずとも自力で読みこなすことができるようになる。</li> </ul>
授業計画	<p><b>【夏学期】</b> 教科書（ランマンの『サンスクリット・リーダー』）を用い、冒頭部分（『マハーバーラタ』の「ナラ王物語」）から読み進める。 第1回：授業の説明，出席者各人のサンスクリット能力の確認など 第2回～第15回：講読</p> <p><b>【冬学期】</b> 最初は引き続きランマンの『サンスクリット・リーダー』を用いて夏学期の続きから読み進める。出席者の理解に応じ、授業の中盤以降は各種の辞典や文法書を用いながら、韻文あるいは散文で書かれ、かつあまり文法的な破綻のない古典サンスクリットの説話、また通常のサンスクリットの文法規則からしばしば逸脱する、仏教やジャイナ教などの文献を任意に選定して読む。ランマンを継続して読んでも構わない。この点は受講者と相談して決定する。 第1回～第5回：『サンスクリット・リーダー』講読 第6回：各種工具書の説明，使用テキストについての相談等 第7回～第15回：テキスト講読</p>
授業の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講者全員による輪読方式を取り、あらかじめ担当個所を指定することはない。</li> <li>2. 輪読においては、最初に原文を音読し、次に各単語がどのような語形か（○○という○○語幹女性実名詞の <b>Nominative Plural</b>，等）をすべて説明したうえで、最後に全体の翻訳を述べるという手順を必ずとる。</li> <li>3. 2点目は少なくともランマンを用いている間は必ず行う。ランマンから離れた後は必ずしもこの方法を取らないが、なぜそのような翻訳をしたのかを問う場合があるので、そのような翻訳の根拠となった各種文法事項や依拠した工具書などを説明できるように準備しておかなければならない。</li> </ol>
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントするほか、個別にメールなどでも対応する。
学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価する。

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	<p>輪読による各人の発表という形式をとるため、予習が必要である。予習は短くとも180分を用いること。復習は短くとも60分を確保すること。</p> <p>十分な予習時間を確保できなかった場合も必ず出席してノートを取り、当該回で学んだ内容をしっかりと復習すること。</p>
テキスト	<p>Charles Rockwell Lanman, <i>A Sanskrit Reader: Text and Vocabulary and Notes</i>. Harvard University Press, 1884.</p> <p>William Dwight Whitney, <i>A Sanskrit Grammar</i>. Leipzig: Breitkopf and Härtel, 1879.</p> <p>両方ともインドから安価なリプリント版が出版されている（内外のオンライン書店や専門書店で入手可能）ほか、Internet Archive 等でも公開されている。出席者は初回開始日までに入手しておくこと。最低限 Lanman の持参は必須だが、Lanman の Reader は Whitney の文法を前提とし、注記で Whitney の該当箇所と言及するため、Whitney も随時参照できるようにしておく必要がある。</p>
参考文献	「参照するべきではない二次文献」も含め、授業中に指示する。
履修上の注意	<p>サンスクリット初級文法を履修済であることを履修条件とする。</p> <p>授業は基本的に日本語で行うが、文法的な用語は英語かドイツ語で言う場合が多い。</p>
連絡方法	初回の授業で説明する。

## 未修者のためのチベット語

科目番号	26109
科目名・単位数	古典チベット語 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	金曜日 5時限目
担当教員氏名	石川 巖 講師 (中村元東方研究所専任研究員)
授業題目	初級チベット語文法
授業の目的・概要	チベット語の古典を音読し、翻訳しうようにするために、実践的なチベット語文法を講ずる。間々、背景としてのチベット文化についても解説しながら進めていく。
到達目標	チベット語の古典を音読し、古典一般に対し基本的な翻訳ができるようにする。
授業計画	<p>夏学期</p> <p>1回：チベット文字</p> <p>2回：冠字と添足字</p> <p>3回：添前字、添後字、再添後字</p> <p>4回：辞書の引き方</p> <p>5回：名詞、形容詞、代名詞</p> <p>6回：不定助辞、複数辞、数詞、序数詞</p> <p>7回：属格助辞の体言用法、結合接続辞、etc 辞、類例辞</p> <p>8回：略形化と並置</p> <p>9回：認定の叙述</p> <p>10回：存在の叙述</p> <p>11回：動詞と具格助辞の体言用法</p> <p>12回：於格助辞の体言用法と否定辞</p> <p>13回：動名詞と分詞</p> <p>14回：従格助辞の体言用法</p> <p>15回：試験</p> <p>冬学期</p> <p>1回：総括詞</p> <p>2回：選択接続辞</p> <p>3回：具格助辞と na 以外の於格助辞の用言用法</p> <p>4回：於格助辞 na の用言用法と助動詞構文</p> <p>5回：名詞複合語を形成する bya、byed、mkhan</p> <p>6回：従格助辞の用言用法、未完接続辞、結合接続辞</p> <p>7回：連動接続辞</p> <p>8回：中断、反戻の語と古典の実際</p> <p>9回：引用と言及の助辞</p> <p>10回：関係詞と命令法</p> <p>11回：時の接続詞と過去・完了の助動詞</p> <p>12回：未来、進行、経験、使役の助動詞</p> <p>13回：読解練習①經典の書き出し</p> <p>14回：読解練習②問答の文</p> <p>15回：試験</p>
授業の方法	プリント教材を配布して講義を行いつつ受講者に練習問題に当たらせる。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中その都度コメントする他、メールで質問も受け付け、メールで回答しつつ授業でも紹介する。

学位授与方針との関連	<a href="https://www.icabs.ac.jp/about/policy/">https://www.icabs.ac.jp/about/policy/</a>
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）およびテストにて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習にそれぞれ2時間をかけること。なお、練習問題や読解練習の予習については時間内に終わらなくとも途中放棄せず、該当の回の一応全て終えること。
テキスト	プリント配布。
参考文献	山口瑞鳳『チベット語文語文典』春秋社、2002年。
履修上の注意	特になし。
連絡方法	初回の授業で説明する。